

講義コード	U350100101	科目ナンバリング	035A101
科目名	コミュニケーション演習(初級)1A		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西1-103		

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)2、ドイツ語C(初級)と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭試験

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

Studio 21 (A1): Glossar,Cornelsen

### 教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350100102	科目ナンバリング	035A101
科目名	コミュニケーション演習(初級)1B		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1		
担当者名	BAUER, Lars		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西1-103		

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)2、ドイツ語C(初級)と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭試験

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch,Cornelsen

Studio 21 (A1): Glossar,Cornelsen

### 教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101101	科目ナンバリング	035A102
科目名	コミュニケーション演習(初級)2A		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西1-103		

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、ドイツ語C(初級)と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭試験

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

- Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Glossar, Cornelsen

### 教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101102	科目ナンバリング	035A102
科目名	コミュニケーション演習(初級)2B		
副題	Studio 21 (A1)		
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 西1-103		

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、都市の紹介、アポをとる、道案内など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気、健康)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、ドイツ語C(初級)と同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭試験

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

- Studio 21 (A1.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A1): Glossar, Cornelsen

### 教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

原則として1年次に履修すること。



講義コード	U350102101	科目ナンバリング	035A201
科目名	コミュニケーション演習(中級)1A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西1-308		

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen

Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

### 教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350102102	科目ナンバリング	035A201
科目名	コミュニケーション演習(中級)1B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-308		

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

### 教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103101	科目ナンバリング	035A202
科目名	コミュニケーション演習(中級)2A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 北1-407		

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

### 教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103102	科目ナンバリング	035A202
科目名	コミュニケーション演習(中級)2B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2		
担当者名	KERN, Daniel		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 北1-407		

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

### 教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U350104101	科目ナンバリング	035A203
科目名	コミュニケーション演習(中級)3A		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 中央-508		

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所に目を通してくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

### 教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350104102	科目ナンバリング	035A203
科目名	コミュニケーション演習(中級)3B		
副題	Studio 21 (A2)		
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 中央-507		

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々なテーマ(趣味、旅行、メディア、職業、祝日、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第1学期 Studio 21 (Themenkreis 1 - 6)
第3回	第2学期 Studio 21 (Themenkreis 7 - 12)
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

主に下記の教科書を用いながら授業を進めます。パートナー練習、グループ練習なども含めて、なるべく多く発言することが求められます。

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通してくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

返却時にコメントします。

### 教科書

- Studio 21 (A2.1): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2.2): Das Deutschbuch, Cornelsen
- Studio 21 (A2): Vokabeltaschenbuch, Cornelsen

### 教科書コメント

ドイツ語既修者で1年次にStudio 21 (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350105101	科目ナンバリング	035A131
科目名	現代地域事情 入門ゼミナール1		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies 1		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 中央-507		

### 授業概要

ドイツとは、どんな国なのでしょうか。また、ドイツという国の特徴は、どんな歴史や制度によって生み出されているのでしょうか。この授業では、政治制度や教育制度、働き方、食生活、価値観（環境への意識、宗教観）など、様々な観点から現代のドイツについての基礎知識を学びます。また、調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等、大学・社会人生活において必要となるさまざまな技術の基礎を学び、それらを用いて学期の後半には受講生に発表を行ってまいります。

### 到達目標

高校までと違う大学での学習・研究の仕方を身に着けること。現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、発表する能力を身に着けること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	発表テーマの割り振り・作業グループ仮作成
第3回	図書検索について
第4回	インターネット情報の使い方について
第5回	テーマの確定
第6回	スライド(パワーポイント)資料を作る①ソフトの使い方
第7回	スライド(パワーポイント)資料を作る②文献リストの作り方
第8回	発表の流れの確認・発表の練習
第9回	発表①(第Ⅰ～Ⅱ章)
第10回	発表②(第Ⅲ～Ⅳ章)
第11回	発表③(Ⅴ章)
第12回	発表④(第Ⅵ章)
第13回	レポートの書き方
第14回	1学期の復習
第15回	到達度確認

### 授業方法

グループワークを中心に進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各自の担当する発表に関して、毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	課題の提出と授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにコメントをつけて返却します。

### 教科書

現代ドイツを知るための62章, 浜本隆志、高橋憲, 明石書店, 第2, 2013, 9784750337982

### 教科書コメント

第1回目の授業に教科書を持参してください。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。/第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350106101	科目ナンバリング	035A132
科目名	現代地域事情 入門ゼミナール2		
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies 2		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 中央-507		

### 授業概要

1学期に学習した調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、教科書の後半からテーマを選び、問いを立ててそれに答える形式で発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

### 到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。  
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	発表テーマの割り振り・作業グループ仮作成
第3回	問いの立て方について
第4回	情報収集の仕方(一学期の復習)
第5回	テーマの確定
第6回	発表①(第Ⅶ部前半)
第7回	発表②(第Ⅶ部後半)
第8回	発表③(第Ⅷ部前半)
第9回	発表④(第Ⅷ部後半)
第10回	発表⑤(第Ⅸ部前半)
第11回	発表⑥(第Ⅸ部後半)
第12回	発表⑦(第Ⅹ部前半)
第13回	発表⑧(第Ⅹ部後半)
第14回	2学期の復習
第15回	到達度確認

### 授業方法

発表を中心に進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	課題の提出と授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表に対してコメントを返却します。それを参考にレポートを書きます。

### 教科書

現代ドイツを知るための62章, 浜本隆志、高橋憲, 明石書店, 第2, 2013, 9784750337982

### 教科書コメント

第1回目の授業に教科書を持参してください。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350107101	科目ナンバリング	035A211
科目名	言語・情報 入門ゼミナールA		
副題	ことばの不思議		
英文科目名	Introduction: to Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西2-403		

### 授業概要

この授業では、日本語や英語といった既知の言語と対照しながら、ドイツ語の特徴について、また言語の共通性について考えます。

### 到達目標

言語を科学的に観察する目を養い、ことばの不思議・ことばのおもしろさを知ること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入、発表担当の希望調査、文献調査法について
第2回	ドイツ語の多様性
第3回	ドイツ語の文法と語彙の特徴
第4回	地域から見たドイツ語【言語地理学】(方言区分、スイスドイツ語、オーストリアのドイツ語、ルクセンブルク語など)
第5回	状況・場面のなかのことば【語用論】(発話意図、誤解、心態詞など)
第6回	会話の構造【談話分析】(ターンテーク、談話標識、ジェスチャーなど)
第7回	異文化間コミュニケーション(謝罪の仕方、挨拶、語彙構造の違いなど)
第8回	中間まとめ
第9回	ことばのスタイル【文体論】(動詞文体と名詞文体、官庁文体、話しことばと書きことば、プラスチック・ワードなど)
第10回	社会のなかのことば【社会言語学】(duとSie、若者ことば、トルコ系移民のことばなど)
第11回	歴史のなかのドイツ語【ドイツ語史】(ラテン語の影響、ルターの役割、東ドイツのドイツ語など)
第12回	現代ドイツ語(現代語の発展傾向、EUにおけるドイツ語、チャットのドイツ語など)
第13回	辞書の世界(グリム兄弟のドイツ語辞典、明治期の独和辞典、類語辞典、文体辞典、語源辞典など)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

### 授業方法

教員による説明と受講生による発表とを織り交ぜた形で各テーマにアプローチし、グループ学習と全体討論を経て理解を深めます。また、資料の調べ方、内容のまとめ方、ハンドアウトの作り方、発表(プレゼンテーション)の仕方等に関して、その都度具体的に指導します。なお、面談を行い、発表(プレゼンテーション)の内容と文献について個別に指示します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

次回の授業内容の概観を与える資料を事前に配付するので、必ず読んでおくこと(1時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	発表(プレゼンテーション)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表(プレゼンテーション)に関しては当該の授業内で、レポートについては必要に応じてコメントを与えます。

### 参考文献コメント

授業時に適宜指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U350107102	科目ナンバリング	035A211
科目名	言語・情報 入門ゼミナールB		
副題	ことばの不思議		
英文科目名	Introduction: to Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2-403		

### 授業概要

この授業では、日本語や英語といった既知の言語と対照しながら、ドイツ語の特徴について、また言語の共通性について考えます

### 到達目標

言語を科学的に観察する目を養い、ことばの不思議・ことばのおもしろさを知ること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入、発表担当の希望調査、文献調査法について
第2回	ドイツ語の多様性
第3回	ドイツ語の文法と語彙の特徴
第4回	地域から見たドイツ語【言語地理学】(方言区分、スイスドイツ語、オーストリアのドイツ語、ルクセンブルク語など)
第5回	状況・場面のなかのことば【語用論】(発話意図、誤解、心態詞など)
第6回	会話の構造【談話分析】(ターンテーク、談話標識、ジェスチャーなど)
第7回	異文化間コミュニケーション(謝罪の仕方、挨拶、語彙構造の違いなど)
第8回	中間まとめ
第9回	ことばのスタイル【文体論】(動詞文体と名詞文体、官庁文体、話しことばと書きことば、プラスチック・ワードなど)
第10回	社会のなかのことば【社会言語学】(duとSie、若者ことば、トルコ系移民のことばなど)
第11回	歴史のなかのドイツ語【ドイツ語史】(ラテン語の影響、ルターの役割、東ドイツのドイツ語など)
第12回	現代ドイツ語(現代語の発展傾向、EUにおけるドイツ語、チャットのドイツ語など)
第13回	辞書の世界(グリム兄弟のドイツ語辞典、明治期の独和辞典、類語辞典、文体辞典、語源辞典など)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

### 授業方法

教員による説明と受講生による発表とを織り交ぜた形で各テーマにアプローチし、グループ学習と全体討論を経て理解を深めます。また、資料の調べ方、内容のまとめ方、ハンドアウトの作り方、発表(プレゼンテーション)の仕方等に関して、その都度具体的に指導します。なお、面談を行い、発表(プレゼンテーション)の内容と文献について個別に指示します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

教員による説明と受講生による発表とを織り交ぜた形で各テーマにアプローチし、グループ学習と全体討論を経て理解を深めます。また、資料の調べ方、内容のまとめ方、ハンドアウトの作り方、発表(プレゼンテーション)の仕方等に関して、その都度具体的に指導します。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	発表(プレゼンテーション)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表(プレゼンテーション)に関しては当該の授業内で、レポートについては必要に応じてコメントを与えます。

### 参考文献コメント

授業時に適宜指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350108101	科目ナンバリング	035A221
科目名	文学・文化 入門ゼミナールA		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2-203		

### 授業概要

ドイツ語圏の文化史を学ぶための基礎となる歴史的背景を学び、それぞれの時代の文学や芸術作品について、各自が関心を持ったテーマを選択して発表を行います。また発表したテーマに即してレポートを纏めることによって、アカデミック・スキルの基本を学びます。なお、発表やレポートの作成上必要な研究倫理(引用の仕方、引用文献の表記方法)を習得することも目標とします。

### 到達目標

ドイツ語圏の文化史の概略を把握し、それぞれの時代における文化や芸術の特徴を理解する。また関心を持つテーマについて発表を行い、確実な資料検索に基づいて自分の考えを明確に伝えることを目標とする。さらに資料検索、レポート作成に関する基本的なスキルを習得する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の趣旨、準備の仕方、発表の準備)
第2回	宗教改革の時代:ルターの思想、宗教改革時代の芸術(デューラー、グリュネヴァルトなど)
第3回	プロイセンとハプスブルク
第4回	啓蒙絶対主義の時代と文化:宮廷の庇護から芸術の自立化へ(ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ゲーテなど)
第5回	自由と統一を求めて(ロマン派、グリム兄弟)
第6回	文学と政治(ハイネ)
第7回	小説の時代
第8回	写実主義と自然主義
第9回	世紀転換期の文化(ユークェントシュティール、表現主義)
第10回	第一次世界大戦からヴァイマル時代へ(モダニズム芸術)
第11回	ナチス時代と文化統制
第12回	戦後の文学・文化:過去とどう向き合うか(ギュンター・グラス、47年グループ)
第13回	ニュー・ジャーマン・シネマ
第14回	統一後の文化、多文化主義の現在
第15回	到達度確認

### 授業計画コメント

発表テーマに関しては、第1回の授業で選択可能な発表テーマのリストを配布しますので、それを参考にしながら自分の関心のあるテーマを見つけてください。

### 授業方法

前半の授業では、時代背景を理解するためにドイツの歴史に関する共通テキストを扱います。毎回の授業では指定された箇所について各自で内容を纏め、グループ内でミニ発表を行います。後半の授業では各自が選択したテーマについての発表を行い、それについてのディスカッションを行う形で進めていきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、次の授業で扱うテキストの範囲を指定しますので、それに関してミニ発表ができるように資料を作成してグループワークにのぞんでください。また発表の準備は教員との相談を踏まえて資料検索、発表資料作成を行って準備してください(通常授業では1～2時間、発表の準備にはさらに時間が必要です。)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回の授業で行うミニ発表の準備状況と発表の仕方は平常点として重視します。レポートはアカデミック・スキルを習得しているかどうかを重視して採点します。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

毎回の授業で作成するミニ発表の資料、およびレポートはコメントを付して返却します。

#### **教科書**

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社,2007,9784309761053

#### **教科書コメント**

第1回の授業に教科書を持参してください。

#### **参考文献コメント**

授業中に適宜指示します。

#### **履修上の注意**

第一回目の授業には必ず出席してください。

講義コード	U350108102	科目ナンバリング	035A221
科目名	文学・文化 入門ゼミナールB		
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西2-203		

### 授業概要

ドイツ語圏の文化史を学ぶための基礎となる歴史的背景を学び、それぞれの時代の文学や芸術作品について、各自が関心を持ったテーマを選択して発表を行います。また発表したテーマに即してレポートを纏めることによって、アカデミック・スキルの基本を学びます。なお、発表やレポートの作成上必要な研究倫理(引用の仕方、引用文献の表記方法)を習得することも目標とします。

### 到達目標

ドイツ語圏の文化史の概略を把握し、それぞれの時代における文化や芸術の特徴を理解する。また関心を持つテーマについて発表を行い、確実な資料検索に基づいて自分の考えを明確に伝えることを目標とする。さらに資料検索、レポート作成に関する基本的なスキルを習得する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の趣旨、準備の仕方、発表の準備)
第2回	宗教改革の時代:ルターの思想、宗教改革時代の芸術(デューラー、グリュネヴァルトなど)
第3回	プロイセンとハプスブルク
第4回	啓蒙絶対主義の時代と文化:宮廷の庇護から芸術の自立化へ(ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ゲーテなど)
第5回	自由と統一を求めて(ロマン派、グリム兄弟)
第6回	文学と政治(ハイネ)
第7回	小説の時代
第8回	写実主義と自然主義
第9回	世紀転換期の文化(ユークェントシュティール、表現主義)
第10回	第一次世界大戦からヴァイマル時代へ(モダニズム芸術)
第11回	ナチス時代と文化統制
第12回	戦後の文学・文化:過去とどう向き合うか(ギュンター・グラス、47年グループ)
第13回	ニュー・ジャーマン・シネマ
第14回	統一後の文化、多文化主義の現在
第15回	到達度確認

### 授業計画コメント

発表テーマに関しては、第1回の授業で選択可能な発表テーマのリストを配布しますので、それを参考にしながら自分の関心のあるテーマを見つけてください。

### 授業方法

前半の授業では、時代背景を理解するためにドイツの歴史に関する共通テキストを扱います。毎回の授業では指定された箇所について各自で内容を纏め、グループ内でミニ発表を行います。後半の授業では各自が選択したテーマについての発表を行い、それについてのディスカッションを行う形で進めていきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、次の授業で扱うテキストの範囲を指定しますので、それに関してミニ発表ができるように資料を作成してグループワークにのぞんでください。また発表の準備は教員との相談を踏まえて資料検索、発表資料作成を行って準備してください(通常授業では1～2時間、発表の準備にはさらに時間が必要です。)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回の授業で行うミニ発表の準備状況と発表の仕方は平常点として重視します。レポートはアカデミック・スキルを習得しているかどうかを重視して採点します。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

毎回の授業で作成するミニ発表の資料、およびレポートはコメントを付して返却します。

#### **教科書**

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社,2007,9784309761053

#### **教科書コメント**

第1回の授業に教科書を持参してください。

#### **参考文献コメント**

授業中に適宜指示します。

#### **履修上の注意**

第一回目の授業には必ず出席してください。

講義コード	U350109101	科目ナンバリング	035A311
科目名	言語・情報コース ゼミナール(1)		
副題	ことばと図像による心理戦ー基礎編		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 中央ー507		

### 授業概要

私たちは日常生活のなかで知らず知らずのうちに、ことばや図像による宣伝・プロパガンダにさらされて、そのイメージ戦略によって多かれ少なかれ「誘導」されています。この授業では、このようなことばと図像による心理戦の歴史を振り返るとともに、現在の状況を分析するための基本的な視点と方法論を学びます。

### 到達目標

ことばと図像による宣伝・プロパガンダの歴史と現在を概観することによって、情報の操作・イメージの誘導に踊らされない視点の持ち方を獲得すること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	「プロパガンダ」とはなにか？
第3回	ポスト真実(「もう一つの真実」)
第4回	ル・ボン『群衆心理』(1895年)
第5回	20世紀初頭のアメリカの広告学
第6回	希少性、返報性による説得
第7回	権威一導かれる服従
第8回	恐怖アピール、好意、断言、誇大表現
第9回	商業広告
第10回	企業ブランド(コーポレート・デザイン)
第11回	戦時プロパガンダ(「嘘つきは戦争のはじまり」)
第12回	ナチ政権下のメディア戦略
第13回	チャーチルとヒトラー
第14回	総括
第15回	到達度確認

### 授業方法

教員が指定した参考文献を扱う回では、受講生たちが担当箇所を決めて内容報告を報告し、教員の司会進行のもとグループワーク、全体討議へと進めます。受講生が自主的に参考文献やデータをリサーチする回では、受講生が司会進行をし、担当の受講生たちが議論をリードしながら進めていきます。また、ゲストスピーカーの先生をお呼びして、レクチャーいただく予定をしています。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業で説明し配布された資料を読み返し、次回までに疑問点をまとめておくこと(1時間)。自らが報告するに際しては、教員と個別面談を行い十分に準備した上で、わかりやすいハンドアウトを作成し、パワーポイント等による提示用データも作成すること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークについては各グループに授業内でコメントを行います。受講生が行った口頭報告については、改善点等について授業内で指摘します。提出されたレポートについては、コメントをつけて返却します。

### 参考文献

大衆操作 ー宗教から戦争までー, G.S. ジャウエット/V. オドンネル著(松尾光晏訳), ジャパン・タイムズ, 1993  
 プロパガンダ 広告・政治宣伝のからくりを見抜く, A. プラトカニス/E. アロンソン(社会行動研究会訳), 誠信書房, 2001

影響力の武器—なぜ、人は動かされるのか、R.B.チャルディーニ(社会行動研究会訳),誠信書房,2007

ファシスト的公共性—総力戦体制のメディア学,佐藤卓己,岩波書店,2018

たのしいプロパガンダ,辻田真佐憲,イースト・プレス,2015

#### **履修上の注意**

この授業を履修する学生は、第2学期に言語・情報コース ゼミナール(2)を履修すること。  
第一回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U350109102	科目ナンバリング	035A311
科目名	言語・情報コース ゼミナール(2)		
副題	ことばの図像による心理戦—応用編		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 中央—507		

### 授業概要

私たちは日常生活のなかで知らず知らずのうちに、ことばや図像による宣伝・プロパガンダにさらされて、そのイメージ戦略によって多かれ少なかれ「誘導」されています。この授業においては、ことばと図像による宣伝・プロパガンダに関して受講生が主体的にテーマ(事例)を決め、第1学期の「言語・情報コースゼミナール(1)」で学習した視点と方法論によって分析実践を行います。

### 到達目標

各受講生が主体的にテーマと原資料を選び出し、自ら分析の実践を行い、ことばと図像による宣伝・プロパガンダに関して考察できる能力をつけ、為政者や広告主による情報の操作やイメージの誘導に踊らされない視点の持ち方を獲得すること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	「双頭の鷲」の紋章
第2回	ルター(派)のプロパガンダ(木版画ビラ、論争書、賛美歌)
第3回	帝政期ドイツのポスター
第4回	ベルリン・オリンピック(1936年)におけるCoca Cola広告
第5回	ナチ政権時代のポスターとカリカチュア
第6回	切手が語るナチスの謀略
第7回	第二次大戦時のアメリカにおける反ナチアニメ
第8回	東ドイツにおけるポスター
第9回	シュレーダーとメルケルのTV討論(TV-Duell 2005)
第10回	現代ドイツ政治におけるナチ語彙の復活
第11回	ルフトハンザの雑誌広告の50年間
第12回	日独商品(例えばお菓子)パッケージの比較
第13回	ホームページにおける企業ブランドイメージ(例えば自動車)
第14回	総括
第15回	到達度確認

### 授業計画コメント

上に挙げた個別のテーマは例示であって、実際には各受講生がことばと図像による宣伝・プロパガンダに関わるテーマを自主的に決定し、発表します。

### 授業方法

各受講生が選んだテーマに応じて、授業全体の進行の仕方を調整します。各受講生の口頭発表のあと、グループワーク、そして全体議論を行い、各テーマに関する興味と知識を高めると同時に方法論に関する意識も高めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各学生が発表した際の資料を読み返し、次回までに疑問点をまとめておくこと(1時間)。自らが発表するに際しては、教員と数回にわたり個別面談を行い十分に準備した上で、わかりやすいハンドアウトを作成し、パワーポイント等による提示用データも作成すること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークについては各グループに授業内でコメントを行います。受講生が行った口頭報告については、改善点等について授業内で指摘します。提出されたレポートについては、コメントをつけて返却します。

### 参考文献コメント



受講生が選んだテーマに応じて、適宜、授業時および面談時に指示します。

#### **履修上の注意**

この授業を履修する学生は、第1学期に言語・情報コース セミナール(1)を履修しておくこと。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U350109103	科目ナンバリング	035A311
科目名	言語・情報コース ゼミナール(3)		
副題	ドイツ語認知言語学		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 中央-507		

### 授業概要

言語能力を人間の他の認知能力との関連で捉える認知言語学の立場にたち、ドイツ語の語彙や文法現象を検討していく。特に、構文のもとになる格表示に現れる事態の捉え方を扱うことにより、意味と統語のインターフェースを明らかにしていく。この授業では、範疇化、プロトタイプ、スキーマ、メタファーなど認知言語学の基本的な概念をドイツ語の例を中心に、英語やフランス語、また日本語の例をも参照しつつ、明らかにしていく。

### 到達目標

- ・認知言語学の基本的な考え方と方法論を理解する。
- ・認知言語学の枠組みでドイツ語を分析する方法を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入;認知言語学とは何か、授業の進め方や一般的注意
第2回	言語による世界の捉え方
第3回	カテゴリーとプロトタイプ(1) 理解
第4回	カテゴリーとプロトタイプ(2) 発表
第5回	比喩1;メタファー(1) 理解
第6回	比喩1;メタファー(2) 発表
第7回	比喩2;メトニミーとシネクドキ(1) 理解
第8回	比喩2;メトニミーとシネクドキ(2) 発表
第9回	意味変化(1) 理解
第10回	意味変化(2) 発表
第11回	多義語(1) 理解
第12回	多義語(2) 発表
第13回	語から文へ(1) 理解
第14回	語から文へ(2) 発表
第15回	到達度確認と授業の総括

### 授業方法

教科書に従い、基本的に1章を2回に分けて扱う。(1)の理解の回では、内容を全員で確認したあと、練習問題を解いていく。(2)の発表の回では、担当グループが課題の内容をドイツ語の現象に置き換えて発表する。いずれも、グループワークを基本とする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

教科書の当該の章を読み理解するために60分程度の予習をする必要があり、担当者になった場合は6時間程度の準備が必要である。また、最終的な発表には2週間程度の準備が必要である。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回の内容を確実に理解し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関してはmanaba上で集めフィードバックします。

### 教科書

ファンダメンタル認知言語学,野村益寛,ひつじ書房,2014,978-4-89476-608-2

### 教科書コメント

教科書は毎回使用するので必ず事前に購入し、初回の授業から持参してください。発表の担当を決めるときに必要です。

### 参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席すること。

言語・情報コースゼミナール(4)もあわせて履修すること。

講義コード	U350109104	科目ナンバリング	035A311
科目名	言語・情報コース ゼミナール(4)		
副題	ドイツ語認知言語学発展		
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 中央-507		

### 授業概要

言語能力を人間の他の認知能力との関連で捉える認知言語学の立場にたち、ドイツ語の語彙や文法現象を検討していく。特に、構文のもとになる格表示に現れる事態の捉え方を扱うことにより、意味と統語のインターフェースを明らかにしていく。この授業では、前期に引き続き、他動性や文法化など認知言語学の基本的な概念をドイツ語の例を中心に、英語やフランス語、また日本語の例をも参照しつつ、明らかにしていく。最終的には発表者が独自に設定した課題で発表する。

### 到達目標

- ・認知言語学の基本的な考え方と方法論を理解する。
- ・認知言語学の枠組みでドイツ語を分析する方法を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	文法とは何か？(1) 理解
第2回	文法とは何か？(2) 発表
第3回	文法マーカー・品詞・文法関係(1) 理解
第4回	文法マーカー・品詞・文法関係(2) 発表
第5回	他動性(1) 理解
第6回	他動性(2) 発表
第7回	文法化(1) 理解
第8回	文法化(2) 発表
第9回	小さな記号、大きな記号(1) 理解
第10回	小さな記号、大きな記号(2) 発表
第11回	日独対照研究(1) 理解
第12回	日独対照研究(2) 発表
第13回	参加者の発表(1)
第14回	参加者の発表(2)
第15回	到達度確認と授業の総括

### 授業方法

教科書に従い、基本的に1章を2回に分けて扱う。(1)の理解の回では、内容を全員で確認したあと、練習問題を解いていく。(2)の発表の回では、担当グループが課題の内容をドイツ語の現象に置き換えて発表する。いずれも、グループワークを基本とする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

教科書の当該の章を読み理解するために60分程度の予習をする必要があり、担当者になった場合は6時間程度の準備が必要である。また、最終的な発表には2週間程度の準備が必要である。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回の内容を確実に理解し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに関してはmanaba上で集めフィードバックします。

### 教科書

ファンダメンタル認知言語学,野村益寛,ひつじ書房,2014,978-4-89476-608-2

### 教科書コメント

教科書は毎回使用するので必ず事前に購入し、初回の授業から持参してください。発表の担当を決めるときに必要です。

### 参考文献コメント

参考文献は授業中に指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席すること。

言語・情報コースゼミナール(3)もあわせて履修すること。

講義コード	U350110101	科目ナンバリング	035A321
科目名	文学・文化コース ゼミナール(1)		
副題	「わたし」を描く試み		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 中央-508		

### 授業概要

今日、私たちは様々な場面で自己紹介をしますが、「自分自身を描く・説明する」とは、近代以降、とりわけ文学と絵画で大きなテーマの一つをなしてきました。この授業では、ジャンル(自伝・自画像、伝記・肖像画)とメディア(文学、絵画)との関わりを考察したあとで、様々な時代に描かれた自伝を読み、また自画像を見ていきます。授業の中心に位置するのはドイツ語圏の人々ですが、自伝文学の歴史でまず言及される、ローマ帝国末期のキリスト教の教父アウグスティヌスの『告白』(397～398年)は皆で読み、「個」や「わたし」といった概念がそもそも意識されていなかった中世の状況を理解しておきましょう。その後はルネサンス以降の作品を、主に、①なぜ「わたし」は描かれてきたのか、②どう描かれてきたのか、を考えていきます。

### 到達目標

- ・ドイツ語圏における近代市民社会の誕生(1800年前後)と、「個」や「わたし」への意識の高まりとの関連を理解する。
- ・自伝・自画像というジャンルの特徴・可能性・限界を知る。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	中世の意識: アウグスティヌス『告白』
第3回	近代の幕開け: デューラーの自画像
第4回	近代文学の誕生: お手本としてのフランス、ルソー『告白』
第5回	学生発表①
第6回	カール・フィリップ・モーリッツ『アントン・ライザー』
第7回	学生発表②
第8回	ゲーテ『詩と真実』
第9回	学生発表③
第10回	Exkurs: E. T. A. ホフマン『牡猫ムルの人生観』——自伝のパロディ
第11回	学生発表④
第12回	ロマン派画家 C. D. フリードリヒの自画像
第13回	学生発表⑤
第14回	総括
第15回	自主研究

### 授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらいます。
- ・受講者の関心により、扱う作品や作家・画家を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆をするうえで知っておくべき研究倫理を学びます。

### 授業方法

- ・グループワークを中心に授業を進めます。

### 準備学習(予習・復習)

毎回、事前に読んでくる共通テキスト(20～30頁)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備をどれだけ真摯に行ったかも評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。

- ・レポートは、コメントをして返却します。

#### 教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

#### 履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・文学・文化コース ゼミナール(2)もあわせて履修すること

講義コード	U350110102	科目ナンバリング	035A321
科目名	文学・文化コース セミナール(2)		
副題	「わたし」を描く試み		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 中央-508		

### 授業概要

1学期に引き続き、様々な自伝・自画像にスポットを当てていきます。世紀末のウィーンでは、フロイトが無意識を発見しますが、「わたし」のなかに「わたし」では意識しえない領域があるなかで、作家や画家たちはどのような自伝・自画像を描いたのでしょうか。また、20世紀に入って社会の「大衆化」が進むと、「個」を描く自伝・自画像はどのような変容を強いられたでしょうか？今日、私たちの一人一人が複数の顔(アイデンティティ)を持っていると言えますが、そのような時代の自伝・自画像とは、どのようなものとしてありうるのでしょうか。

### 到達目標

- ・1800年頃から現代までの、「個」を取り巻くドイツ文化史の大まかな流れを理解する。
- ・自伝(文学)と自画像(絵画)というメディアの違いに意識的になる。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	自画像を描かなかったクリムト、描いたシーレ
第3回	シュニッツラー『ウィーン青春 ある自伝的回想』
第4回	シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』
第5回	学生発表①
第6回	E. L. キルヒナーの自画像
第7回	マックス・ベックマンの自画像
第8回	学生発表②
第9回	Exkurs: アウグスト・ザンダーのセルフ・ポートレート(写真)
第10回	ヴァルター・ベンヤミン『1900年前後のベルリンにおける幼年時代』
第11回	学生発表③
第12回	イルゼ・アイヒンガー『映画と災厄』
第13回	学生発表④
第14回	総括
第15回	自主研究

### 授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらいます。
- ・受講者の関心により、扱う作品や作家・画家を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆をするうえで知っておくべき研究倫理を学びます。

### 授業方法

- ・グループワークを中心に授業を進めます。

### 準備学習(予習・復習)

毎回、事前に読んでくる共通テキスト(20～30頁)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備をどれだけ真摯に行ったかも評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。



### 教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

### 履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・文学・文化コース ゼミナール(1)もあわせて履修すること

講義コード	U350110103	科目ナンバリング	035A321
科目名	文学・文化コース セミナール(3)		
副題	モダニズム芸術の諸相(1)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-305		

### 授業概要

モダニズム芸術は、19世紀末～20世紀初頭に展開した新たな芸術表現を求める傾向の総称です。工業化の急速な進展や都市化による生活世界の変化は、近代という時代を支えてきた価値観を批判的に問い返す思潮を生み出しました。工場で大量生産される安価な製品ではなく、職人技による工芸品の価値が再発見され、過去の様式の模倣に溢れていた建築への批判から新たなデザインや様式を求める運動としてユーゲントシュティールの運動が起きます。それは芸術を通じて生活や生き方を変える構想でもありました。この授業では、モダニズムの発生の背景にある時代状況を捉え、モダニズムの潮流が目ざしたものを具体例に則して考察します。

### 到達目標

19世紀末の時代状況を把握した上で、当時の思想・芸術の特徴を理解し、個々の事例について分析・考察ができるようになることを目標とします。また発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報の表記方法など)を習得することも目標とします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(モダニズムとは)
第2回	ニーチェのインパクト(1)『反時代的考察』
第3回	ニーチェのインパクト(2)『ツァラトストラはこう語った』
第4回	Jugendstil(1) 雑誌„Jugend“におけるJugendの概念(読解)
第5回	Jugendstil(2) 雑誌„Jugend“におけるJugendの概念(まとめ)
第6回	Jugendstil(3) イギリスのarts and crafts運動との関係
第7回	Jugendstil(4) 分離派とは何か
第8回	Jugendstil(5) 建築(ウィーン、ダルムシュタット)
第9回	Jugendstil(6) デザイン、工芸
第10回	Jugendstil(7) 絵画
第11回	ジャポニズムの影響
第12回	装飾批判: アドルフ・ロース『装飾と犯罪』
第13回	文学作品(1) リルケ
第14回	文学作品(2) ゲオルゲ
第15回	到達度確認

### 授業方法

2回～5回、および13回・14回は、共通テキストを用いたグループワークを中心に行い、6回～12回は発表を中心に進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそって、テキストを読み、必要な資料を検索し、重要事項をまとめておく。(約2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	選んだテーマについての発表

### 成績評価コメント

評価のポイントは以下のとおり。(1) 授業の準備を課題によって十分に行っているか、(2) 準備をもとにしてグループワークに積極的に参加しているか、(3) 十分に準備をした上で発表を行っているか、(4) 授業全体の趣旨を理解した上でレポート作成上のルールを守ってレポートが書かれているか。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業準備のための課題については、その都度評価を付した上で返却します。またレポートについては、レポート作成の際に示す評価基準の各項目にそって評価を示し、返却します。

### 教科書コメント

著作権に留意した上でプリントを配布します。

### 参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。  
文学・文化コースゼミナール(4)もあわせて履修すること。

### その他

授業を欠席する場合、事前に担当者までメールで連絡をすること。

講義コード	U350110104	科目ナンバリング	035A321
科目名	文学・文化コース ゼミナール(4)		
副題	モダニズム芸術の諸相(2)		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-305		

### 授業概要

第1学期で学んだ19世紀末までのモダニズム芸術の潮流を踏まえた上で、20世紀初頭からのモダニズム芸術の動きを考察します。芸術作品や芸術を支える制度そのものへの懐疑から始まったイタリアの未来派、またフランスのフォーヴィスムは、ドイツ語圏での表現主義の言語芸術や絵画に大きな影響を与えました。また身体性への着目は表現主義的舞踊と言われるモダンダンスを生み出しました。さらに諸芸術の境界線を越えた芸術の統合と社会変革をめざしたバウハウスは、モダニズム建築として後の時代にも大きな影響を与えました。この授業では20世紀初頭のモダニズム芸術がどのような社会的・文化的状況を背景としているかを踏まえた上で、多面的なモダニズム芸術とその現代的意味を考察します。

### 到達目標

20世紀初頭のモダニズム芸術の展開の時代的背景を理解し、ドイツ語圏以外の文化圏からの影響とモダニズム芸術のヨーロッパ的次元での共通点を捉えること、またドイツ語圏で独自の展開を見せたモダンダンスやバウハウスについて分析・考察できることを目標とします。発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報の表記方法など)を習得することも目標とします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	イタリア未来派・ロシア構成主義の影響
第3回	フランスのフォーヴィスムの影響
第4回	表現主義(1) 表現主義という名称の発祥と雑誌„Strum“
第5回	表現主義(2) 絵画(「ブリュッケ」の画家たち)
第6回	表現主義(3) 絵画(「青騎士」の画家たち)
第7回	表現主義(4) 文学作品(アウグスト・シュトラム、ゲオルク・ハイム)
第8回	表現主義(5) 映画(『カリガリ博士』)
第9回	表現主義(6) 映画(『カリガリ博士』)の分析
第10回	身体性の発見:モダンダンス(1) (イサドラ・ダンカン)
第11回	身体性の発見:モダンダンス(2) (ルドルフ・ラバン、マリー・ヴィグマン)
第12回	表現主義建築(ブルーノ・タウトと日本建築)
第13回	機能主義への移行:バウハウス(芸術の統合と建築の位置づけ)
第14回	機能主義への移行:バウハウス(具体事例の分析)
第15回	到達度確認

### 授業方法

2回～5回、および8回～11回は共通テキストを用いたグループワークを中心に行い、それ以外は発表を中心に進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそって、テキストを読み、必要な資料を検索し、重要事項をまとめておく。(約2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	選んだテーマについての発表

### 成績評価コメント

評価のポイントは以下のとおり。(1)授業の準備を課題によって十分に行っているか、(2)準備をもとにしてグループワークに積極的に参加しているか、(3)十分に準備をした上で発表を行っているか、(4)授業全体の趣旨を理解した上でレポート作成上のルールを守ってレポートが書かれているか。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業準備のための課題については、その都度評価を付した上で返却します。またレポートについては、レポート作成の際に指示する

評価基準の各項目にそって評価を示し、返却します。

#### **教科書コメント**

著作権に留意した上でプリントを配布します。

#### **参考文献コメント**

授業中に適宜指示します。

#### **履修上の注意**

第1回目の授業にかならず出席してください。  
文学・文化コースゼミナール(3)もあわせて履修すること。

#### **その他**

授業に欠席する場合には、事前に担当者にメールで連絡をしてください。

講義コード	U350110105	科目ナンバリング	035A321
科目名	文学・文化コース ゼミナール(5)		
副題	Kafkas "Brief an den Vater"		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 北1-406		

### 授業概要

"Der Brief an den Vater" (1919) ist ein niemals abgeschickter Brief Franz Kafkas an seinen Vater. Er stellt ein zentral wichtiges Dokument seines Schreibens und Lebens dar. Vor dem Hintergrund von Kafkas Welt soll der relativ lange Brief im Seminar gelesen, diskutiert und interpretiert werden. Auf die Entstehungsgeschichte und die spätere Rezeption des Briefes wird besonders eingegangen.

### 到達目標

Die Studierenden lernen einen grundlegenden Text Kafkas kennen und erhalten somit Zugang zu einem wesentlichen Dokument der modernen Literatur. Verschiedene Interpretationsmodelle, die an diesem Text erprobt werden (wie sozialgeschichtliche, psychoanalytische, intertextuelle etc.) führen sie weiter in die Literaturwissenschaft und Literaturtheorie ein.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung; Kafkas Leben und seine Literatur
第2回	Fortsetzung: Einführung
第3回	Inhalt des Briefes - Übersicht
第4回	Personen des Briefes - Kafkas Familie
第5回	Struktur des Briefes
第6回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第7回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第8回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第9回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第10回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第11回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第12回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第13回	Leistungsüberprüfung (Test)
第14回	Test-Rückgabe und Besprechung
第15回	Abschlussdiskussion

### 授業方法

Lektüre; Gruppendiskussionen; Einzelvorträge

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Lektüre der aufgegebenen Textabschnitt zu Hause: Erarbeitung unbekannter Wörter etc.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Die Teilnehmer und Teilnehmerinnen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Am Ende jedes Semesters wird ein Test geschrieben. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Vortrag (40%), der Teilnahme an den Diskussionen (30%) und dem Abschlusstest (30%).

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter bespricht die Vorträge intensiv mit den Vortragenden. Über die Diskussionsbeteiligung und das Testergebnis kann jeweils nach den Unterrichtsstunden bzw. in der Sprechstunde gesprochen werden.

### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。  
文学・文化コースゼミナール(6)もあわせて履修すること。

講義コード	U350110106	科目ナンバリング	035A321
科目名	文学・文化コース ゼミナール(6)		
副題	Kafkas "Brief an den Vater"		
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 北1-406		

### 授業概要

"Der Brief an den Vater" (1919) ist ein niemals abgeschickter Brief Franz Kafkas an seinen Vater. Er stellt ein zentral wichtiges Dokument seines Schreibens und Lebens dar. Vor dem Hintergrund von Kafkas Welt soll der relativ lange Brief im Seminar gelesen, diskutiert und interpretiert werden. Auf die Entstehungsgeschichte und die spätere Rezeption des Briefes wird besonders eingegangen

### 到達目標

Die Studierenden lernen einen grundlegenden Text Kafkas kennen und erhalten somit Zugang zu einem wesentlichen Dokument der modernen Literatur. Verschiedene Interpretationsmodelle, die an diesem Text erprobt werden (wie sozialgeschichtliche, psychoanalytische, intertextuelle etc.) führen sie weiter in die Literaturwissenschaft und Literaturtheorie ein.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse vom letzten Semester
第2回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第3回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第4回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第5回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第6回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第7回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第8回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第9回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第10回	Lektüre, Diskussion und Interpretation des Briefes
第11回	Zur Rezeption des Briefes (Forschungen)
第12回	Zur Rezeption des Briefes (Forschungen)
第13回	Leistungsüberprüfung (Test)
第14回	Test-Rückgabe und Besprechung
第15回	Abschlussdiskussion

### 授業方法

Lektüre, Gruppendiskussionen, Einzelvorträge

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Lektüre der aufgegebenen Textabschnitte zu Hause: Erarbeitung unbekannter Wörter etc.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Die Teilnehmer und Teilnehmerinnen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Am Ende jedes Semesters wird ein Test geschrieben. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Vortrag (40%), der Teilnahme an der Diskussion (30%) und dem Abschlusstest (30%).

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter bespricht die Vorträge intensiv mit den Vortragenden. Über die Diskussionsbeteiligung und das Testergebnis kann jeweils nach den Unterrichtsstunden bzw. in der Sprechstunde gesprochen werden.



### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること  
文学・文化コースゼミナール(5)もあわせて履修すること。

講義コード	U350111101	科目ナンバリング	035A331
科目名	現代地域事情コース ゼミナール(1)		
副題	東ドイツを振り返る(1)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 北1-201		

### 授業概要

今年にはベルリンの壁の崩壊からちょうど30年目にあたる。その後、急速にドイツは統一されたが、それは対等な合併ではなく、東ドイツ(DDR、ドイツ民主共和国)が西ドイツ(BRD;ドイツ連邦共和国)に吸収されるか形で行われた。40年間だけ存在した国、東ドイツとはどのような国であったのか。このゼミでは、その成立から消滅までを、政治、経済、教育、文化という様々な点で振り返っていく。

### 到達目標

- ・戦後ドイツ史を特に東ドイツを軸に説明できること。
- ・東ドイツの政治、経済、教育、文化について理解すること。
- ・ドイツ統一への道筋を理解すること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション; このゼミの進め方や一般的説明。
第2回	東ドイツの成立
第3回	発表とディスカッション①
第4回	東ドイツの政治体制
第5回	発表とディスカッション②
第6回	東ドイツの経済政策
第7回	発表とディスカッション③
第8回	東ドイツの教育
第9回	発表とディスカッション④
第10回	東ドイツの文学
第11回	発表とディスカッション⑤
第12回	東ドイツの映画
第13回	発表とディスカッション⑥
第14回	総括
第15回	達成度確認

### 授業計画コメント

受講者の関心等により、授業計画を変更する場合があります。

### 授業方法

偶数回: 事前に読んできた資料の情報を基に、基礎的事実関係の整理を行い、さらに調査すべき疑問点のピックアップを行います。  
奇数回: 疑問点について調査してきた内容を発表してもらいます。発表しない学生には、質問あるいはコメントをもらいます。第1学期の授業を受けた上でさらに疑問に思うことを調査し、レポートとして提出してもらいます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

偶数回: 指定した資料の要約(1時間) 奇数回: 疑問点の調査(2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点に関しては、毎回の資料をきちんと読み込んだ上で、積極的にディスカッションに参加すること。レポートは事実に即して、きちんと自分の意見を述べているかを評価のポイントにします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはmanabaで提出してもらい、必要に応じてフィードバックします。

### **教科書**

私は東ドイツに生まれた,フランク・リースナー,東洋書店,2,2013,978-4-88595-992-9

### **教科書コメント**

教科書は絶版なので購入する必要はない。必要に応じて、図書館で借りること。

### **参考文献コメント**

参考文献は授業中に指示します。

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。現代地域事情コース セミナール(2)と併せて履修すること。

### **その他**

夏休みに、ライプツィヒ大学の語学研修に参加し、現地で資料を集めてくることを強く推奨します。

講義コード	U350111102	科目ナンバリング	035A331
科目名	現代地域事情コース ゼミナール(2)		
副題	東ドイツを振り返る(2)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 北1-201		

### 授業概要

今年にはベルリンの壁の崩壊からちょうど30年目にあたる。その後、急速にドイツは統一されたが、それは対等な合併ではなく、東ドイツ(DDR、ドイツ民主共和国)が西ドイツ(BRD;ドイツ連邦共和国)に吸収されるか形で行われた。40年間だけ存在した国、東ドイツとはどのような国であったのか、そしてどう評価されているのか? このゼミでは、第1学期に引き続き、ドイツ統一から現在までの東ドイツ(地域)の状況を検討していく。

### 到達目標

- ・戦後ドイツ史を特に東ドイツを軸に説明できること。
- ・東ドイツの政治、経済、教育、文化について理解すること。
- ・ドイツ統一への道筋を理解すること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション; このゼミの進め方や一般的説明。
第2回	月曜デモと平和革命
第3回	発表とディスカッション①
第4回	ドイツ統一直後
第5回	発表とディスカッション②
第6回	シュタージ問題
第7回	発表とディスカッション③
第8回	環境問題
第9回	発表とディスカッション④
第10回	現在の東ドイツ地域(1)
第11回	発表とディスカッション⑤
第12回	現在の東ドイツ地域(2)
第13回	発表とディスカッション⑥
第14回	総括
第15回	達成度確認

### 授業計画コメント

受講者の関心等により、授業計画を変更する場合があります。

### 授業方法

偶数回: 事前に読んできた資料の情報を基に、基礎的事実関係の整理を行い、さらに調査すべき疑問点のピックアップを行います。奇数回: 疑問点について調査してきた内容を発表してもらいます。発表しない学生には、質問あるいはコメントをしてもらいます。第2学期の授業を受けた上でさらに疑問に思うことを調査し、レポートとして提出してもらいます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

偶数回: 指定した資料の要約(1時間) 奇数回: 疑問点の調査(2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点に関しては、毎回の資料をきちんと読み込んだ上で、積極的にディスカッションに参加すること。レポートは事実に即して、きちんと自分の意見を述べているかを評価のポイントにします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはmanabaで提出してもらい、必要に応じてフィードバックします。

### **教科書**

私は東ドイツに生まれた,フランク・リースナー,東洋書店,2,2013,978-4-88595-992-9

### **教科書コメント**

教科書は絶版なので購入する必要はない。必要に応じて、図書館で借りること。

### **参考文献コメント**

参考文献は授業中に指示します。

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。現代地域事情コース セミナール(1)と併せて履修すること。

### **その他**

積極的な参加を望みます。

講義コード	U350111103	科目ナンバリング	035A331
科目名	現代地域事情コース ゼミナール(3)		
副題	EUのなかのドイツ		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 中央-508		

### 授業概要

ヨーロッパで一番の経済力を誇り、EUの牽引役をはたしているドイツ。そのドイツを率いるメルケル首相は、自由や寛容といったヨーロッパの価値観を体現してきた人と言われますが、2018年10月、2021年の任期満了をもって首相の座を退くことを表明しました。ドイツは、そして同時にヨーロッパは、今まさに岐路に立っています。

この授業ではドイツの現状をEUとの関連でとらえることを目標に、まず、EUの成り立ちを振り返り、そもそもEUがどのような試みとして始まり、発展してきたものであったのかを確認します。その上で、現在の加盟国の多様性、共通点や差異を理解し、国境を撤廃することの意義、通貨を統一させることの意義、教育システムに互換性を持たせることの意義を考察します。

### 到達目標

- ・EUの歴史が20世紀の歴史と密接に関わってきたことを理解する。
- ・EUの理想、また理想に向けた一步一步を理解する。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	EUの成り立ち
第3回	EUを取り巻く国際情勢の変化
第4回	Exkurs: オーストリアの場合
第5回	Exkurs: スイスの場合
第6回	各国比較(東西の歴史の違い)
第7回	各国比較(産業構造の違い)
第8回	各国比較(宗教、言語、文化の違い)
第9回	国境撤廃(シェンゲン協定)の意義
第10回	共通通貨(ユーロ)の意義
第11回	ボローニャ・プロセス(教育改革)の意義
第12回	Exkurs: 共通の歴史理解への努力(フランスとの対話)
第13回	Exkurs: 共通の歴史理解への努力(ポーランドとの対話)
第14回	総括
第15回	自主研究

### 授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらいます。第1回目の授業で発表テーマと日程を決めます。
- ・受講者の関心により、扱う項目を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆をするうえで知っておくべき研究倫理を学びます。

### 授業方法

- ・グループワークを中心に授業を進めます。

### 準備学習(予習・復習)

毎回、事前に読んでくる共通テキスト(20～30頁)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備をどれだけ真摯に行ったかも評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。

- ・レポートは、コメントをして返却します。

#### 教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

#### 履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コースゼミナール(4)もあわせて履修すること

講義コード	U350111104	科目ナンバリング	035A331
科目名	現代地域事情コース ゼミナール(4)		
副題	EUのなかのドイツ		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 1時限 中央-508		

### 授業概要

1学期の内容を踏まえ、2学期は、EUに降りかかるいくつかの試練を取り上げ、①それらがどのように生じているか、②そうした問題にドイツはどのように対処しているか、を見ていきます。ドイツの立場は、ヨーロッパにどのようなインパクトを与えているのでしょうか？その点を理解したうえで、ドイツをヨーロッパの中で理解しようとするとき、その立場はどのように評価されるものであるのか、考えていきます。

### 到達目標

- ・現在のEUが、どのような問題に直面しているのかを理解する。
- ・そうした問題にドイツがどのように対処しているのか、またそれがEUの中でどのような意味を持つのかを理解する。
- ・読んだテキストについて、自らの意見が言えるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	試練① ユーロ危機 その1
第3回	〃 その2
第4回	〃 その3
第5回	試練② 移民・難民問題 その1
第6回	〃 その2
第7回	〃 その3
第8回	試練③ 極右の台頭 その1
第9回	〃 その2
第10回	〃 その3
第11回	試練④ イギリスのEU離脱 その1
第12回	〃 その2
第13回	〃 その3
第14回	総括
第15回	自主研究

### 授業計画コメント

- ・ひとり1回、口頭発表をしてもらいます。第1回目の授業で発表テーマと日程を決めます。
- ・受講者の関心により、扱う項目を変えることがあります。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆をするうえで知っておくべき研究倫理を学びます。

### 授業方法

- ・グループワークを中心に授業を進めます。

### 準備学習(予習・復習)

毎回、事前に読んでくる共通テキスト(20～30頁)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備をどれだけ真摯に行ったかも評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。



### 教科書コメント

適宜、授業時に配布します。

### 履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コースゼミナール(3)もあわせて履修すること

講義コード	U350111105	科目ナンバリング	035A331
科目名	現代地域事情コース ゼミナール(5)		
副題	ドイツのエネルギー政策(1)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 中央-507		

### 授業概要

福島原発事故を受けてドイツが脱原発に踏み切ったことは日本でも知られています。脱原発は実現するのでしょうか。またそれはなぜ可能なのでしょうか。  
このゼミでは、日独のエネルギー政策の違いを学ぶことで、経済学を専門としない学生であっても知っておくべき基本的な経済学の知識を身に着けるとともに、エネルギーという身近な問題を通して日本の社会を相対化し、批判的に考える機会を持ってもらいます。毎週事前に配布した日本語の文献の要約を提出してもらいます。そこで得た知識を前提に、授業ではグループワークでドイツ語の文献を読み解き基本的な知識を習得してもらいます。

### 到達目標

- ・経済学を専門としない学生であっても知っておくべき基本的な経済学の知識を身に着けるとともに、エネルギーという身近な問題を通して日本の社会を相対化し、批判的に考える能力を身につけること。
- ・このテーマについての自分の意見を適切に表現できるようになること。
- ・論文作成等を行う上で知っておくべき研究倫理を学ぶこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	経済統計の入手・利用方法
第3回	エネルギーとは何か
第4回	市民運動、フクシマ、そして脱原発へ
第5回	原発のコスト・放射能廃棄物・廃炉
第6回	電力自由化
第7回	化石エネルギー
第8回	再生可能エネルギーとは
第9回	風力発電
第10回	その他の再生可能エネルギー
第11回	固定価格買取制度
第12回	省エネ・エコ建築
第13回	エコシティ
第14回	総括
第15回	理解度の確認

### 授業方法

予習で得た知識を前提に、グループワークでドイツ語の文献を読み解き基本的な知識を習得してもらいます。授業の最後にミニプレゼンテーションを行ってもらい、ディスカッションを行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎週事前に配布した日本語の文献の要約を提出してもらいます。(1時間程度)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにコメントを付けて返却します。

### 教科書コメント

授業中に指示します。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。  
現代地域事情コース ゼミナール(6)と併せて履修すること。

講義コード	U350111106	科目ナンバリング	035A331
科目名	現代地域事情コース ゼミナール(6)		
副題	ドイツのエネルギー政策(2)		
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 中央-507		

### 授業概要

1学期末に提出してもらったレポートの内容を深めて、プレゼンテーションを行ってもらいます。それをもとに、参加者全員でディスカッションを行います。また、あるべき日本のエネルギー政策についてグループ発表を行ってもらいます。

### 到達目標

- ・経済学を専門としない学生であっても知っておくべき基本的な経済学の知識を身につけるとともに、エネルギーという身近なテーマを通して日本の社会を相対化し、批判的に考える能力を身につけること。
- ・このテーマについての自分の意見を適切に表現できるようになること。
- ・論文作成等を行う上で知っておくべき研究倫理を学ぶこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	経済分野の論文の書き方について(データ等の扱い)
第3回	学生発表①市民運動
第4回	学生発表②脱原発
第5回	学生発表③核廃棄物
第6回	学生発表④化石エネルギー
第7回	学生発表⑤風力発電
第8回	学生発表⑥太陽光発電
第9回	学生発表⑦その他の再生可能エネルギー
第10回	学生発表⑧固定価格買取制度
第11回	学生発表⑨電力自由化
第12回	学生発表⑩エコ建築・省エネ
第13回	学生発表⑪エコシティ
第14回	グループ発表・総括
第15回	理解度の確認

### 授業計画コメント

学生の関心により内容が変更になる可能性があります。

### 授業方法

学生の発表とディスカッションを中心に進めます。発表者には15分程度の発表を行ってもらいます。また、発表内容をまとめてレポートにし、提出してもらいます。発表をしない学生には、必ず質問あるいはコメントをしてもらいます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

発表者には、事前に発表テーマに関する資料を指定してもらいます。受講者にはそれを要約してきてもらいます。(1時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表の評価を返却します。

### 教科書コメント

授業中に指示します。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。  
現代地域事情コース ゼミナール(5)と併せて履修すること。

講義コード	U350200101	科目ナンバリング	035A511
科目名	言語・情報 講義(1)		
副題	ヨーロッパの言語と諺		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	瀬川 真由美		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 南3-203		

### 授業概要

地球上には6000から8000種類もの言語が存在すると言われているが、その中でもインド・ヨーロッパ語族は地理的に広範囲にわたり分布している。ドイツ語や英語をインド・ヨーロッパ語族のクルガン人までさかのぼり、ヨーロッパにおける民族の移動や言語の定着を解説する。また神話や童話を参考に、動物をモチーフとしたドイツ語の諺を考察する。

### 到達目標

民族の移動や言語の定着を概観しながら歴史的に世界を俯瞰する観点を醸成し、言語と言語表現の一つである諺を題材に言語と文化の深淵を多面的に観察する視点を養う。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	言語の同異の観点
第3回	インド・ヨーロッパ語族
第4回	民族の移動
第5回	イベリア半島の民族史
第6回	ブリテン島と英語の成立
第7回	ドイツ語とドイツ人
第8回	言語と「～人」の関係
第9回	ヨーロッパでの言語の成立のまとめ
第10回	ドイツ語の諺の中での「犬」などのイメージ
第11回	ドイツ語の諺の中での「猫」などのイメージ
第12回	ドイツ語の諺の中での「熊」などのイメージ
第13回	ドイツ語の諺の中での「鶏」などのイメージ
第14回	言語の歴史と諺の関係のまとめ
第15回	到達度の確認

### 授業計画コメント

ドイツ語の知識がなくても十分に理解できる内容です。

### 授業方法

世界地図を見ながら、民族の移動を概観し、必要に応じてプリントを配布する。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回ノートを取り、配布されたプリントとともに、前週までの内容を理解してから、その週の講義に参加すること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

レポートは情報の分析と独自の考察の成果を評価する。  
小テストは確実に授業の内容を理解しているのかを評価する。  
平常点は授業の参加態度、ディスカッション、質疑応答の成果等を評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題やレポートの講評はクラス全体に行い、個人に対してはコメントを付記して返却する。

### 教科書コメント

プリントを配布する。

### **参考文献**

猫の嘆きと白ネズミ, 瀬川真由美, 白水社, 初, 1996, 4-560-00466-8

### **参考文献コメント**

博物学的観点からドイツ語の動物を含む諺を集めた書籍です。すべて日本語訳を付してありますので、ドイツ語の知識がまったくなくても理解できます。

### **履修上の注意**

ドイツ語の知識がなくても受講可能です。

### **その他**

言葉の楽しさを実感してください。

講義コード	U350200102	科目ナンバリング	035A511
科目名	言語・情報 講義(2)		
副題	ドイツ語の多様性を見る(2)		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	田中 雅敏		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 西1-214		

### 授業概要

言語は変遷する。それは、印欧語からゲルマン語、そしてドイツ語が成立していくような歴史的(通時的)変異のことを言うこともできるし、同じ時代にも世代間や社会層によって使われる言葉が違ふ、というような共時的変異もある。この授業では、ドイツ語の共時的変異について考察する。

扱うトピックは、「若者言葉 (Jugendsprache)」「移民ドイツ語 (Kiezdeutsch)」「簡略ドイツ語 (Kurzdeutsch)」とする。Kiezdeutsch は、移民の多い地域で、とりわけ若者世代によって用いられるものであり、その意味で Jugendsprache とも重なりを持つ。また、前置詞や冠詞が省略されて用いられる傾向にあるため、Kurzdeutsch とも重なりが多い。この3つの区分は、いずれも独立したものではなく、重なり合いながら、現代ドイツ語の新しい側面を見せてくれるものである。

### 到達目標

- ことばの諸相を知ることで、ことばの機能の二面性(①伝達ツールとしての言語と②それ自身が文化を持っている)を学ぶ。
- 文献精読を通して、書かれていることを鵜呑みにせず、自分で事実確認をする習慣を身につけることができる。
- テキストを批判的に読むアカデミックリテラシーを身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	導入:歴史的(通時的)ドイツ語の諸相
第3回	導入:共時的ドイツ語の諸相/4~6回のための資料配付
第4回	Jugendsprache(1):概説
第5回	Jugendsprache(2):ケーススタディ
第6回	Jugendsprache(3):まとめ/7~9回のための資料配付
第7回	Kiezdeutsch(1):概説
第8回	Kiezdeutsch(2):ケーススタディ
第9回	Kiezdeutsch(3):まとめ/10~12回のための資料配付
第10回	Kurzdeutsch(1):概説
第11回	Kurzdeutsch(2):ケーススタディ
第12回	Kurzdeutsch(3):まとめ
第13回	視聴覚教材を用いた振り返り
第14回	まとめとレポート
第15回	到達度確認

### 授業方法

基本的には講義形式で進めていくが、文献を読んできてもらうなど、受講生にも能動的に授業に臨んでもらうことが望まれる。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

2単位を修得するための学習時間の目安は90時間。対面授業で約30時間、事前事後(自宅学習)で60時間程度の学習が必要となる。

- 参考資料を配付したときは、授業時まで予習該当箇所を和訳しておくこと(週に1~2時間)。
- また、内容について、不明な点をまとめておくこと(週に1~2時間)。
- 授業中に配布した資料の必要部分をすべて読み返し、疑問点をまとめておくこと(週に1時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは採点およびコメントを付与の上、授業内、またはG-PortなどでPDF形式で返却・開示する。



### 教科書コメント

必要に応じて資料を配付することとし、市販の教材は使用しない。

### 参考文献コメント

授業の中で、参考文献を案内する。

### その他

リアクションペーパーなどを提出してもらうことがある(記名式)。

講義コード	U350200103	科目ナンバリング	035A511
科目名	言語・情報 講義(3)		
副題	ナチ運動期のヒトラー演説		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 1時限 中央-402		

### 授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を、政治的・歴史的な文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みる。それは、ヒトラー自身も気づかなかったであろうヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることである。ヒトラー演説をレトリックという面からだけでなく、演説で使用された語彙の変遷も統計学的手法で分析し、政治的・歴史的な文脈を織り込みながらヒトラー演説の実像に迫り、ヒトラー演説に関する神話を解体する。第1学期は、ナチ党が政権を掌握するまでに至る「ナチ運動期」を扱う。

### 到達目標

ナチドイツの独裁者の語りを分析する体験を通じて、現在のそして今後の為政者の語りを冷静に批判的に検討してみる視点を養うこと、為政者が語る計算されたことばに騙されない賢明さを養うこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	《導入》レトリックの基礎概念
第2回	《導入》キング牧師、オバマ全体統領の演説におけるレトリック
第3回	《導入》政治家のことば:スローガンと婉曲語法
第4回	【ヒトラー演説】「指導者」としての語り(1920～1923年)
第5回	【ヒトラー演説】「ミュンヘン一揆」の精算演説(1924年)
第6回	【ヒトラー演説】『わが闘争』における演説理論(1924・25年)
第7回	【ヒトラー演説】禁止された演説(1925～1927年)
第8回	【ヒトラー演説】拡声装置で広がる声(1928年)
第9回	《補足》「ヒトラー演説150万語データ」による統計学的分析
第10回	【ヒトラー演説】選挙戦で集票する演説(1930～1932年)
第11回	【ヒトラー演説】政権掌握:ラジオと銀幕に乗る演説(1933年)
第12回	《補足》首相就任時の演説分析—ジェスチャー、声、レトリック
第13回	《補足》「全権委任法」(1933年3月)
第14回	総括
第15回	到達度の確認

### 授業方法

要点を整理しまとめたプリントを配布し、それに基づきながら、動画や音源を駆使して授業を進める。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

教科書をよく読んで、予習と復習を行っておくこと(1時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	60 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	リアクションペーパー

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったリアクションペーパーに書かれた質問事項などについては、次回の冒頭で取り上げて解説を加える。

### 教科書

ヒトラー演説—熱狂の真実:中公新書,高田博行,中央公論新社,2014

### 参考文献コメント

授業中に適宜指示する。

### その他

ドイツ語の知識がなくても理解できるように配慮しながら、授業を進める。

講義コード	U350200104	科目ナンバリング	035A511
科目名	言語・情報 講義(4)		
副題	ナチ政権下のヒトラー演説		
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 中央-402		

### 授業概要

本講義では、四半世紀にわたるヒトラー演説がナチズムにおいて果たした役割を、政治的・歴史的な文脈と関係づけながら言語学の視点から解明することを試みる。それは、ヒトラー自身も気づかなかったであろうヒトラー演説の変容を、時間軸に沿って追ってみることである。ヒトラー演説をレトリックという面からだけでなく、演説で使用された語彙の変遷も統計学的手法で分析し、政治的・歴史的な文脈を織り込みながらヒトラー演説の実像に迫り、ヒトラー演説に関する神話を解体する。第2学期は、ナチ党による政権掌握後のナチ政権時代を扱う。

### 到達目標

ナチドイツの独裁者の語り进行分析する体験を通じて、現在のそして今後の為政者の語りを冷静に批判的に検討してみる視点を養うこと、為政者が語る計算されたことばに騙されない賢明さを養うこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	【ヒトラー演説】総統の演説舞台(1933～1934年)
第2回	《補足》ヒトラーユーゲントの青少年たちの演説体験
第3回	《補足》イベントとしてのナチ党大会
第4回	【ヒトラー演説】領土拡大の演説(1935～1938年)
第5回	《補足》オーウェルの小説『1984年』:ダブル・スピーク
第6回	《補足》プロパガンダとしてのベルリンオリンピック(1936年)
第7回	【ヒトラー演説】戦時態勢の演説(1939年)
第8回	《補足》ポスターによるプロパガンダ
第9回	【ヒトラー演説】共感を失った演説(1940～1941年)
第10回	《補足》チャップリンの映画『独裁者』-最後の6分間の演説
第11回	【ヒトラー演説】機能停止した演説(1942～1945年)
第12回	《補足》現在ドイツの政治的言説におけるナチ語彙の復活
第13回	《補足》映画『帰ってきたヒトラー』のメッセージ
第14回	総括
第15回	到達度の確認

### 授業方法

要点を整理しまとめたプリントを配布し、それに基づきながら、動画や音源を駆使して授業を進める。

### 準備学習(予習・復習)

教科書をよく読んで、予習と復習を行っておくこと(1時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	リアクションペーパー

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回提出してもらったリアクションペーパーに書かれた質問事項などについては、次回の冒頭で取り上げて解説を加える。

### 教科書

ヒトラー演説-熱狂の真実:中公新書,高田博行,中央公論新社,2014

### 参考文献コメント

授業中に適宜指示する。

### その他

ドイツ語の知識がなくても理解できるように配慮しながら、授業を進める。

講義コード	U350201101	科目ナンバリング	035A521
科目名	文学・文化 講義(1)		
副題	戦後ドイツの文化と社会		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	初見 基		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西2-305		

### 授業概要

戦後ドイツの文化・社会のさまざまな側面を見ることによって、現代ドイツの文化・社会への理解の一助とする。とりわけナチ時代という「負の過去」をあくまでも見据えつつけるという社会的合意がどのような様相で成立したのか、文化史・思想史的な面から追う。ドイツ統一以前は西ドイツが話の中心となる。授業そのものは受講者にとっての「道しるべ」であり、これが自身の大学における学習とどのようにつながるかは、それぞれで考えていただきたい。ただし受講者が担当教員と「同じ考え」「同じ方向性」をもつ必要はまったくない。教員の考え方に対しても、批判的であることが望ましい。

### 到達目標

戦後ドイツの文化・社会について、受講者それぞれが自分なりの関心をもてる点を見だし、それについて読書して調べ、一定のまとまった意見をもてるようになる。先行研究、諸資料を十分に踏まえつつ、たとえ拙く見えようとも「自分自身の考え」をもつような姿勢を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入:なぜドイツの「戦後」を問題にするのかについて、講義そのものの問題意識を確認する。また日本の「戦後」を考えることにもつなげる。
第2回	1945年敗戦直後の光景:ドイツ敗戦がどのように受けとめられたのか、そのさまざまな様相を見る。廃墟の光景や「零時点」「皆伐」といった、まったくの無に帰した位置からの出発、という意識があった他方で、強固な連続性があった点も追う。
第3回	ドイツ人の「罪」:ドイツ敗戦によってドイツ人はナチ・ドイツの犯罪に対する「道徳的罪」を問われることにもなる。この点を詳しく考える。
第4回	東西冷戦:第二次大戦後のドイツは、朝鮮半島とならんで、「国家分断」のかたちで東西冷戦が明瞭に反映された。いまでは想像も難しくなっているこの事態に光を当てる。
第5回	アデナウアー時代:1949年の国家成立以後、「反共の砦」として東西冷戦の最前線に位置した西ドイツは、戦犯に対する恩赦や再軍備化を進め「復古」的な色合いを強めた。ただそのなかでも少数派ながら「批判的」な思考は着実に営まれていった。後者を中心に50年代西ドイツの知的営みを見る。
第6回	「過去の克服」:アデナウアー時代に軽視されるようになったナチ・ドイツ時代の「負の歴史」をめぐって、1950年代半ばから徐々に「過去の克服」を問題にする議論が生じてくる。また60年代に入るとイスラエルでの「アイヒマン裁判」や「フランクフルト・アウシュヴィッツ裁判」も多くの反響を呼んだ。そのような影響を受けた知的営みのいくつかを確認する。
第7回	中間総括:これまでの内容への補遺をするとともに、重要な点についての確認を行う。
第8回	1968年:この年に象徴される社会的激動を見るとともに、その意味を考察する。またその後の展開についても追う。
第9回	1970-80年代:「負の過去」を見据えるという姿勢、これが一方で規範化するが、他方でそれに対する反撥も強くあった。86年の「歴史家論争」を中心に、その前後の知的状況を確認する。
第10回	1980年代半ば以降:世代交代に伴い、それまでの「過去の克服」の議論が徐々に「記憶文化」へと変貌してゆく。その推移を見る。
第11回	東ドイツの崩壊:東ドイツの中で起こった民主化運動、そこへの東ドイツ文学者たちの関与などから、「知識人が民衆の声を代替する」社会のあり方を批判的に考える。
第12回	「戦後」は終わったのか:1990年代、統一ドイツにおけるさまざまな社会的事件、「戦後的言説」へのタブー破りなどから、その知的変動を確認する。
第13回	ドイツの現在:これまでの「戦後」の諸事例を踏まえ、現在のドイツを改めて見る。
第14回	まとめ、全体の理解度の確認
第15回	到達度確認

### 授業計画コメント

本講義は、戦後ドイツ史の概説ではない。政治、経済などの面よりも、文化的側面から戦後ドイツを見るのが中心となる。文学作品をはじめとして演劇、映画、美術、音楽など、「歴史記述」のなかでどちらかと言えば末梢的な領域にも、重点を置いて紹介する。各回ごとの授業内容は、受講者の理解や要望などに応じて変更が見込まれ、必ずしも計画通りには進まない。

### 授業方法

講義科目なので、基本的には「講義」形式で進める。どのような細かい点でも、質問や意見は極力授業中に出していただきたい。話を中断させてしまってもかまわない。さらに、内容上の議論も歓迎する。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前準備はとくに必要としない。授業時に配布した資料に目を通し、次の時間で質問や意見を出す。さらに、講義内容にしたがって、関連する書籍を極力多数読んでいただきたい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	「成績評価コメント」に記した内容を問う試験を実施する。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	最低限の知識確認をする。これの一定水準を超えることで学期末試験受験資格ともなる。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	授業参加への積極性(質問等)を考慮する。
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

事項(人名や年代等)の暗記を求める授業ではない。1)自分なりの問題意識をしっかりとっているか、2)問題意識に即して関連文献等を読み、事実関係を調べてあるか、3)以上を踏まえて、その問題を自分なりによく考え抜いているか、4)自分の考えを説得的に提示できているか、以上、受講者それぞれが自分で考え、それを自分の言葉で表現できていることをもつとも重要と考える。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントをつけて返却する。

### 教科書コメント

特定の教科書は用いない。関連資料は授業内に配布する。過去の配った資料も振り返り確認することもあるため、毎回持参していただきたい。

### 参考文献

戦後ドイツ:岩波新書,三島憲一,岩波書店,1987

現代ドイツ:岩波新書,三島憲一,岩波書店,2006

過去の克服,石田勇治,白水社,2002

### 参考文献コメント

参考文献として挙げた書籍は、おおきな流れを確認できるものに限った。個別の課題については、授業時に適宜紹介する。

講義コード	U350201102	科目ナンバリング	035A521
科目名	文学・文化 講義(2)		
副題	ゲーテ学の概略		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	糸川 麻里生		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西2-406		

### 授業概要

ゲーテはドイツ語圏最大級の文豪であるだけでなく、ユニークな自然研究者であり、学問の理論家であった。エネルギー多面体とも言うべき存在であるゲーテの世界観は、その後の各時代のきわめて優れた文学者、思想家、科学者たちによって、様々な方法で継承されている。この講義では、ゲーテの世界観の要点を学ぶとともに、その応用の可能性を探求する。きわめて多くのコンテキストが錯綜するのがゲーテの芸術と科学の世界であるが、彼の仕事を具体的に見ていくことで、少しずつでも曼荼羅のような全体イメージが浮かび上がってくるように試みたい。

### 到達目標

1. 自然科学という営みを思想的に位置付けられるようにする。2. ゲーテ独自の世界観を理解する。3. ゲーテの仕事が現代に対してもっている意味を洞察できるようにする。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ゲーテという人
第2回	ゲーテの時代
第3回	17世紀科学革命(1)
第4回	17世紀科学革命(2)
第5回	スピノザの思想
第6回	ライプニッツとモノドロジー(1)
第7回	ライプニッツとモノドロジー(2)
第8回	色彩論(1)
第9回	色彩論(2)
第10回	形態学(1)
第11回	形態学(2)
第12回	ヘッケルとユクスキュル
第13回	ベンヤミンとワイトゲンシュタイン
第14回	生命記号論
第15回	総括と展望

### 授業方法

講義形式で進めます。参加人数によっては、演習形式でテキストを読むことも考えたいと思います。

### 準備学習(予習・復習)

授業で配布するテキストを、くりかえし熟読すること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	65 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教員メール(mario@myad.jp)による。

### 教科書

自然と象徴,ゲーテ,富山房,1984

講義コード	U350201103	科目ナンバリング	035A521
科目名	文学・文化 講義(3)		
副題	オーストリアの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 西5-202		

### 授業概要

「音楽の都」といわれるハプスブルク帝国の帝都ウィーンでは、歴代の皇帝が音楽文化を保護、促進してきました。500年以上も前から、現在のウィーン少年合唱団の前身となった宮廷楽団がありました。しかし宮廷文化のみならず、民衆の生活の中に音楽やダンスを楽しむ気質が根付いています。18世紀以降、モーツァルトやベートーヴェン、シューベルト、ブラームス、マーラーなど有名な作曲家のほとんどがウィーンで生活しています。本講義では、ハプスブルク帝国の歴史をだどりながら、それぞれの時代の社会を反映した音楽、文学、美術などの芸術、文化を紹介してきます。視聴覚資料をたくさん使い、わかりやすく講義します。

### 到達目標

第1学期では、19世紀前半までのハプスブルク帝国の歴史を学び、いかにウィーンが音楽の都として発展したかを理解する。代表的な皇帝とその時代の文化の特徴を把握する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション「オーストリアとはどんな国？」現在のオーストリア、ハプスブルク帝国時代との様々な違い、オペラ座舞踏会、ニューイヤークンサート、食べ物に見る多民族性
第2回	ハプスブルク宮廷の芸術保護と音楽文化の発展(16世紀)マキシミリアン I 世の結婚政策と宮廷文化、
第3回	オーストリアのバロック精神 カール5世、レオポルドI 世の時代、バロック建築と音楽
第4回	マリア・テレジア ～女帝として、妻として、母として～
第5回	マリー・アントワネットとヨーゼフII 世の時代 モーツァルトのオペラ(1) フィガロの結婚
第6回	モーツァルトのオペラ(2) ジング・シュピール「魔笛」
第7回	オスマン帝国とウィーン トルコブームの音楽 モーツァルト「後宮からの逃走」
第8回	ナポレオンとベートーヴェン
第9回	会議は踊る ～ウィнна・ワルツの成立と発展、舞踏会文化～ ヨハン・シュトラウス親子
第10回	前3月期 ビーダーマイヤー時代の文学と音楽 シュティフターとシューベルト
第11回	フランツ・ヨーゼフ皇帝の都市改造 リングシュトラッセ文化 シュトラウスの時事ワルツ
第12回	教養市民階級の文化 ヨハネス・ブラームス、ビルロート、楽友協会の歴史
第13回	19世紀末ウィーンを体現するエリーザベト ミュージカル「エリーザベト」に見るウィーン世紀末、ライトモチーフによる分析(1)
第14回	19世紀末ウィーンを体現するエリーザベト ミュージカル「エリーザベト」に見るウィーン世紀末、ライトモチーフによる分析(2)
第15回	到達度確認

### 授業計画コメント

普段から音楽やバレエ、美術に関心を持つことが望ましい。

### 授業方法

講義

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業前に予め教科書の該当箇所を読み、予備知識を得ておく。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回のコメントペーパーに書かれた内容で授業への積極的な参画を評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック



学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業で回答したり、資料、説明を工夫する。

### **教科書**

図説 ハプスブルク帝国,加藤雅彦,河出書房新社,1995,4309724957

### **参考文献**

ハプスブルク家:図解雑学,菊池良生,ナツメ社,2008,9784816344749

世紀末ウィーン,カール・ショースキー,岩波書店,1983

ウィーン精神,W.M.ジョンストン,みすず書房,1986

### **参考文献コメント**

その他、洋書、個別テーマに関する参考文献については授業時に指示します。

### **履修上の注意**

第1回目の授業に出席のこと。

### **その他**

オーストリアや音楽に高い関心を持っている学生を歓迎します。ただしドイツ語や音楽の特別な知識は必要としません。毎回のリアクションペーパーの内容を重視します。

講義コード	U350201104	科目ナンバリング	035A521
科目名	文学・文化 講義(4)		
副題	オーストリア 音楽の都ウィーンの歴史と文化		
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies		
担当者名	関根 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 西5-202		

### 授業概要

第1学期では19世紀後半までのハプスブルク帝国の歴史をたどりながら、各時代、社会を反映した芸術(文学、音楽、建築)などを紹介してきました。第2学期では、700年間続いたハプスブルク帝国が崩壊に向かう19世紀末から20世紀初頭に華開いたいわゆる「ヴィーン世紀末」や第一次世界大戦後の継承国オーストリアが辿った20世紀の歴史、文化アイデンティティを考察します。キーワードは「ハプスブルク神話」です。授業では、たくさんの視聴覚資料を紹介します。

### 到達目標

多民族国家ハプスブルク帝国の末期の社会、文化状況、および崩壊後から現代までの政治、社会、文化状況を学ぶことによって、対象的な様相の日本と比較考察できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	「ハプスブルク神話」とは？:第1学期の復習(調整)と今後の予定
第2回	文学・オペラの中の「ハプスブルク神話」:ヨーゼフ・ロート『ラデツキー行進曲』、シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』、ホフマンスタール台本R.シュトラウス作曲『ばらの騎士』
第3回	世紀末美術:分離派とジャポニスム(1)グスタフ・クリムトにおける愛と死、ジャポニスム「黄金のアデーレ」
第4回	世紀末美術:分離派とジャポニスム(2)ヨーゼフ・ホフマンとヴィーン工房
第5回	文学・オペラの中の「ハプスブルク神話」:ヨーゼフ・ロート『ラデツキー行進曲』、シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』、ホフマンスタール台本R.シュトラウス作曲『ばらの騎士』
第6回	明治・大正の日本とオーストリア:ホフマンスタール『エレクトラ』の日本公演をめぐる(森鷗外・松居松葉との文通)
第7回	反ユダヤ主義とシオニズム、翻弄される芸術家たち:グスタフ・マーラーとシェーンベルク
第8回	夢と深層心理の追求:フロイトとシュニッツラー
第9回	銀時代のオペレッタのとハプスブルク神話:レハール『メリー・ウイドウ』、カールマン『チャルダシュの歌姫』、ベナツキー『白馬亭』第一次世界大戦勃発とハプスブルク帝国の崩壊
第10回	ローベルト・ムージル『特性のない男』
第11回	両大戦間のオーストリア:ナチス・ドイツに併合されるまで、ザルツブルク祝祭の設立、オーストリアの文化アイデンティティ
第12回	ヒトラーとヴィーン:「ドイツ人になりたかったオーストリア人」、『サウンド・オブ・ミュージック』の虚実〜トラップ一家の実像、ベルンハルト『ヘルデンプラッツ』
第13回	第二次世界大戦後のオーストリア、戦後処理の問題点と国際社会への復帰、永世中立国、ヴァルトハイム事件まで フンデルトヴァッサーの芸術と社会的活動
第14回	21世紀の観光都市としてのウィーン、ニューイヤークンサート、オペラ座舞踏会の歴史
第15回	到達度確認

### 授業計画コメント

毎回、講義内容について質問、意見、感想または個別の課題をリアクションペーパーに書いて提出していただき、平常点に反映させます。

### 授業方法

音楽や美術、建築などの芸術作品については、多くの視聴覚資料を提示します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

毎回のコメントペーパーの内容で、授業への積極的な参画を評価する

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーの内容(質問、意見、感想)をもとに、講義や配布資料に反映する。

#### 教科書

図説 ハプスブルク帝国,加藤雅彦,河出書房新社,1995,4309724957

#### 参考文献

ハプスブルク家,江村洋,講談社,1990

ハプスブルク君主国1765-1918 マリアテレジアから第一次世界大戦まで,ロビン・オーキー,NTT

ハプスブルク家:図解雑学,菊池良生,ナツメ社,2008,9784816344749

世紀末ウィーン,カール・ショースキー,岩波書店,1983

ウィーン精神,W.M.ジョンストン,みすず書房,1986

#### 参考文献コメント

その他、洋書、個別テーマに関する参考文献については授業時に指示します。

#### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### その他

オーストリアや音楽に高い関心を持っている学生を歓迎します。ただしドイツ語や音楽の特別な知識は必要としません。毎回のリアクションペーパーの内容を重視します。

講義コード	U350202101	科目ナンバリング	035A531
科目名	現代地域事情 講義(1)		
副題	現代スイス		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	佐藤 るみ子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西1-106		

### 授業概要

ヨーロッパのほぼ中央に位置し、小国ながらEUには加盟せず、独自の路線を維持しているスイス連邦共和国について、地誌的側面から見てゆく。当国はマルチ文化国家としてたくいまれな社会構造であるが、これを少しでも理解するために、現代の政治・経済・文化(言語)の各分野からそれぞれ特徴的項目を取り上げ、解説してゆく。

### 到達目標

多言語国家、非中央集権国家とはどういうものなのか、その根源である国家成立の歴史を概観し、現代に繋がる要因を考察してゆく。その上で、人々の日常活動を多方面から追いながら、この国の特異性を理解することに努める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	はじめに;スイス連邦共和国の概観
第2回	地理的環境;立地と生活環境
第3回	歴史的概観;国家誕生経緯とその後(13世紀～中世後期)
第4回	歴史的概観;16世紀～スイス連邦共和国の誕生(19世紀半ば)
第5回	政治機構;連邦制(二院制のしくみ)とカントン(地方自治)
第6回	スイス政治の特徴;インシアティヴとレファレンダム、直接民主制(青空集会)と半直接民主制(議会制)
第7回	富裕国家としての産業構造;世界経済のグローバル化への対処と中小企業の役割
第8回	輸出産業の動向と伝統産業;時計、嗜好品、軍用ナイフ他
第9回	観光業とその歴史;観光大国への道、観光業の現状
第10回	多言語国家の概要;四言語化の歴史(ドイツ語、フランス語、イタリア語、レトロマンス語)
第11回	地域と言語の関係;日常生活と言語教育問題
第12回	政治活動における多言語上の問題点、宗教について
第13回	マルチ文化・社会を支える社会構造について
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究

### 授業計画コメント

各回毎に項目が異なるが、それぞれ関連事項であり、これにより全体の理解に結びつくように構成してある。そのことを念頭に受講すること。

### 授業方法

図版や動画を視覚的に内容補完として利用。毎回授業最後にその日のテーマに沿った考察・質問を書いてもらい、次回の授業で補足解説をする。質問内容により、シラバスとは進行状況、内容を変更することもあり得る。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各テーマに関し、履修確定後に配布する資料を参照し、授業内容を補足することを勧める。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	授業内容に即したテーマか、内容を反映したかの判断
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	65 %	リアクションペーパー内容、出席回数
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点は毎回のリアクションペーパーで授業の理解度・参加度を判断。レポートは授業内容から各自選択し、単なる参考文献のまとめではなく、授業内容を反映した考察であるかを評価する。両者の評価点の総計で成績を決定する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各自のリアクションペーパー内容と、質問等に対する補足内容を把握すること。単に質問するのではなく、自らその疑問点の解決に繋がる要因を見つけ、調べる。特に歴史的事象に関しては、知識がないと理解出来ないもので、自ら学ぶこと。

### 参考文献

スイスを知るための60章,スイス文学研究会(編),明石書店,2014,9784750339788  
スイスの歴史:刀水歴史全書43,U.イム.ホーフ/森田安一(訳),刀水書房,2003,9784887082076  
16世紀から20世紀のスイス時計,「人と時」研究所,1993  
スイスはいま。金融・情報大国の素顔,佐多直彦,ダイヤモンド社,1990,9784478230307  
スイス連邦制度と自治,(財)自治体国際化協会(編),(財)自治体国際化協会,1996

### 参考文献コメント

授業後半に、詳細な参考文献リストを配布予定。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

ヨーロッパの歴史について基礎知識を必要とする。ドイツ語の知識はあった方が、理解しやすい。

講義コード	U350202102	科目ナンバリング	035A531
科目名	現代地域事情 講義(2)		
副題	スイス文化史		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	佐藤 るみ子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西1-106		

### 授業概要

ヨーロッパの小国の中で、多言語国家として現代も特異な存在を示すスイス連邦共和国について、文化史的側面から追ってみる。13世紀に端を発するこの国は、当初から他の国々とは異なる様相を呈してきているが、学問・人的交流においてヨーロッパの中で重要な役割を演じてきた。それがどのようなことであったのか、日本ではあまり知られていない事象を中心に紹介し、スイスという国の理解につなげてゆく。

### 到達目標

ヨーロッパにおける特殊な国の一つと言えるが、文化史の立場から幾つかの要因を見てゆくことで、ヨーロッパの一員であることや、日本での一般的イメージと異なる点があることを実感してもらう。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	はじめに; 国名(原語)と歴史的背景、ヨーロッパ史上の価値観の変遷について
第2回	古代スイス; 古代ローマ遺跡と、Augusta Raurica発掘史について
第3回	ヨーロッパのキリスト教化とザンクト・ガレン修道院の文化史的役割
第4回	国家的英雄三人について; 歴史的意味とスイス人のアイデンティティ
第5回	カントン紋章とその由来について
第6回	移民史; 概説、都市バーゼルにおける製紙業・印刷業と移民の役割
第7回	宗教改革期のスイス; 亡命者(ユグノー)と新産業
第8回	傭兵稼業; その背景と実態、現代版傭兵(教皇庁衛兵)
第9回	国外移住; ヨーロッパ内で活躍した職人、建築家ほか
第10回	国外移住; 科学アカデミーで活躍した知識人
第11回	ヨーロッパ自然科学の先駆者たち
第12回	著名な芸術家、女性科学者
第13回	各地の祝祭行事、伝統スポーツ競技
第14回	まとめ
第15回	自主研究

### 授業計画コメント

授業毎の内容は異なるが、それぞれ関連事項であり、全体把握の足がかりとなることを留意して受講すること。

### 授業方法

可能な限り図版や動画を用い、視覚的に内容補完を行う。毎回最後に当日の授業テーマに沿ってリアクションペーパーを書いてもらい、次回それに関する補足説明を行う。質問内容によっては、シラバスとは異なる内容を扱う可能性もある。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

ヨーロッパ史の基礎的知識を必要とするため、テーマに該当する時代について、事前に周知しておくこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	授業内容に即したテーマと内容を反映したかの判断
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	65 %	リアクションペーパー内容、出席回数
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点は毎回の授業後提出するリアクションペーパーで理解度・参加度を判断。レポートは授業内容から各自テーマを選択し、単なる参考文献のまとめではなく、授業内容を反映した考察であるかを評価する。平常点としてのリアクションペーパーと、レポート評価点の総計で成績を判断する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各自リアクションペーパーの内容と、質問等に対する補足説明を把握すること。単に質問するのではなく、自らその疑問点の解決に繋がる要因を見つけ、調べること。特に歴史的事象に関しては、知識を必要とするので、自ら学ぶこと。

### **参考文献**

アルプス文化史:越境・交流・生成,踊共二(編),昭和堂,2015年,9784812215074  
ドイツ傭兵の文化史,ラインハルト・ハウマン/菊池良生(訳),新評論,2002,9784805764  
ヨーロッパの傭兵:世界史リブレット80,鈴木直志,山川出版社,2003,9784634348004  
危機のユグノー 17世紀フランスのプロテスタント,S.ムール,教文館,1990  
スイス文学叢書 1-4巻,スイス文学研究会(編),早稲田大学出版部,1977-80

### **参考文献コメント**

授業後半に、詳細な文献リストを配布予定。

### **履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### **その他**

ヨーロッパの歴史全般の基礎知識があること。前期の「現代地域事情講義(1) 現代スイス」を受講している方が、より理解しやすい。

講義コード	U350202103	科目ナンバリング	035A531
科目名	現代地域事情 講義(3)		
副題	ナチ体制下のドイツ社会とホロコースト		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	川喜田 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西2-503		

### 授業概要

ナチ時代のドイツ現代史について、①ナチ時代の内政と外交、②強制収容所と絶滅収容所、③ホロコーストと普通のドイツ人、という3つの観点から解説する。各トピックの概略に加えて、研究動向と主要な先行研究についても解説する。また、トピックごとにいくつかの史料を取り上げ、史料批判に基づいて歴史記述を組み立てる方法についてもあわせて考えたい。

### 到達目標

- (1) ナチ時代のドイツ現代史について基本的な知識を習得する。
- (2) ナチ時代のドイツ現代史について研究動向を把握する。
- (3) ドイツ現代史における史料批判の方法について理解する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクションードイツ現代史を考える
第2回	ナチ時代の内政と外交【導入】
第3回	ナチ時代の内政と外交【概説】
第4回	ナチ時代の内政と外交【研究と論争】
第5回	ナチ時代の内政と外交【史料】
第6回	強制収容所と絶滅収容所【導入】
第7回	強制収容所と絶滅収容所【概説】
第8回	強制収容所と絶滅収容所【研究と論争】
第9回	強制収容所と絶滅収容所【史料】
第10回	ホロコーストと普通のドイツ人【導入】
第11回	ホロコーストと普通のドイツ人【概説】
第12回	ホロコーストと普通のドイツ人【研究と論争】
第13回	ホロコーストと普通のドイツ人【史料】
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

### 授業方法

講義形式

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業内に配布された資料、ノート等を読み返すとともに、各人の関心に応じて授業内に紹介された参考文献を参照すること(約1時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパーの内容も評価の対象となる
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

### 教科書コメント

参考文献は授業内に指示する。



講義コード	U350202104	科目ナンバリング	035A531
科目名	現代地域事情 講義(4)		
副題	戦後ドイツ外交史		
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies		
担当者名	板橋 拓己		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西5-202		

### 授業概要

本講義では、第二次世界大戦後から現代にまでいたるドイツ連邦共和国の外交を考察する。とりわけ、世界大戦や冷戦(とその終焉)がもたらした国際政治のマクロな構造変動や、国内の政治・社会の動向に留意しつつ、ドイツの外交政策、ヨーロッパ政策、安全保障・防衛政策を分析する。

### 到達目標

専門分野の知識を深め、新しい視座を形成するため、次の2点を到達目標とする。

- 1) ドイツ外交の歴史と特徴を理解する。
- 2) 第二次世界大戦後から現代にまでいたる国際政治の構造変動を理解する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	戦後ドイツ外交を学ぶ意義
第2回	ドイツ外交の制度的・歴史的基盤
第3回	冷戦による東西分断とアデナウアーの「西側結合」(1):再軍備と主権回復
第4回	冷戦による東西分断とアデナウアーの「西側結合」(2):ヨーロッパ統合の深化
第5回	冷戦秩序の変動と西ドイツ外交(1):エアハルト政権
第6回	冷戦秩序の変動と西ドイツ外交(2):キージンガー政権
第7回	緊張緩和(デタント)とブラントの「新東方政策」
第8回	「経済大国」としての西ドイツ:シュミット政権
第9回	欧州統合の再活性化:コール政権
第10回	ベルリンの壁の崩壊
第11回	東西ドイツ統一
第12回	統一後ドイツのヨーロッパ政策
第13回	統一後ドイツの安全保障・防衛政策
第14回	複合危機のなかのドイツ外交
第15回	まとめ

### 授業方法

講義形式。各講義は当日に配布するレジュメと資料に沿って行われる。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各回のレジュメとノートを読み返す。余裕がある者は、参考文献を読んでもらう(約1時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

詳細は講義のなかで指示する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントをもとに、講義への反映や資料配布等を行う。

### 参考文献

現代ドイツの外交と政治, 森井裕一, 信山社, 2008  
 ドイツ再軍備, 岩間陽子, 中央公論社(中公叢書), 1993

アデナウアー:現代ドイツを創った政治家,板橋拓己,中央公論新社(中公新書),2014

戦後西ドイツ外交の分水嶺—東方政策と分断克服の戦略、1963～1975年,妹尾哲志,晃洋書房,2011

歴史としてのドイツ統一—指導者たちはどう動いたか,高橋進,岩波書店,1999

#### 参考文献コメント

教科書はとくに指定しないが、現代ドイツ外交の最良の入門書である森井裕一著『現代ドイツの外交と政治』(参考文献1)に目を通しておくと、講義の全体像が掴みやすくなるだろう。

講義コード	U350300101	科目ナンバリング	035B311
科目名	言語・情報コース 専門演習(1)		
副題	日独語対照研究 音声・語彙		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	重藤 実		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西2-305		

### 授業概要

系統的には無関係な2つの言語を比較することによって、言語の多様性と普遍性が明らかになる。この授業では、主に音声と語彙に関してドイツ語と日本語を比較し、日独語対照言語学の成果を紹介しながら、言語の多様性と普遍性について考える。

### 到達目標

ドイツ語学の中のドイツ語音声学・音韻論および語彙論の基礎概念を習得し、日本語と対照することによって、ドイツ語の特徴を説明できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	講義の概要と計画
第2回	言語学の歴史と対照言語学
第3回	言語記号の恣意性、サピア・ウォーフの仮説と言語相対性原理
第4回	言語類型論と対照言語学
第5回	音声学と音韻論
第6回	ドイツ語の音声:母音
第7回	ドイツ語の音声:子音
第8回	ドイツ語の音声:アクセントとイントネーション ドイツ語の音声:アクセントとイントネーション
第9回	ドイツ語の音節構造
第10回	ドイツ語の語彙と品詞
第11回	ドイツ語の語形変化:名詞類
第12回	ドイツ語の語形変化:動詞類
第13回	ドイツ語の派生語
第14回	ドイツ語の複合語
第15回	まとめ

### 授業方法

演習

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に配布したプリントの該当箇所を振り返り、不明な点があれば次の授業で質問する準備をしておくこと(2時間)。また次の授業で扱うプリントに目を通し、事前に疑問点をまとめておくこと(2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

ドイツ語の特徴について、疑問が生じた場合、自分で調べてどのくらい問題を解決できるようになったかを評価する。またレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートは、コメントを付与の上返却する。

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。  
履修者数制限あり。

講義コード	U350300102	科目ナンバリング	035B311
科目名	言語・情報コース 専門演習(2)		
副題	日独語対照研究 文法・意味		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	重藤 実		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西2-305		

### 授業概要

系統的には無関係な2つの言語を比較することによって、言語の多様性と普遍性が明らかになる。この授業では、主に文法と意味に関してドイツ語と日本語を比較し、日独語対照言語学の成果を紹介しながら、言語の多様性と普遍性について考える。

### 到達目標

ドイツ語学の中のドイツ語統語論・意味論の基礎概念を習得し、日本語と対照することによって、ドイツ語の特徴を説明できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	講義の概要と計画
第2回	名詞の性
第3回	名詞の数
第4回	格
第5回	結合価理論
第6回	人称
第7回	時制とアスペクト
第8回	態
第9回	視点移動
第10回	ドイツ語の語順
第11回	ドイツ語圏の社会とドイツ語
第12回	ドイツ語による言語行動
第13回	ドイツ語の多様性
第14回	ドイツ語の変化
第15回	まとめ

### 授業方法

演習

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に配布したプリントの該当箇所を振り返り、不明な点があれば次の授業で質問する準備をしておくこと(2時間)。また次の授業で扱うプリントに目を通し、事前に疑問点をまとめておくこと(2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

ドイツ語の特徴について、疑問が生じた場合、自分で調べてどのくらい問題を解決できるようになったかを評価する。またレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートは、コメントを付与の上返却する。

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。  
履修者数制限あり。

講義コード	U350300103	科目ナンバリング	035B311
科目名	言語・情報コース 専門演習(3)		
副題	言語コミュニケーション論(ドイツ語と日本語を分析する)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	白井 宏美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 中央-507		

### 授業概要

言語コミュニケーションに関して、談話分析、会話分析、語用論、社会言語学などからアプローチする研究を提示します。その際、日独比較(日本語とドイツ語、日本文化とドイツ文化)の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、対面会話、チャット、戯曲、映画、マンガ、漫才などから人とロボットのコミュニケーションに至るまで広範囲に及びます。

### 到達目標

談話分析、語用論の研究領域におけるの基本概念を習得し、言語・非言語行動について分析、説明する力と日独比較研究を遂行するために必要な能力・知識を身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション・授業計画の説明
第2回	対面コミュニケーション(1)「あいづち」の日独比較
第3回	対面コミュニケーション(2)「雑談」の日独比較
第4回	分析練習「ことば遊び」
第5回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション
第6回	チャット・コミュニケーション(1) チャットルームにおける「会話」の交わり方ー日独比較研究ー
第7回	チャット・コミュニケーション(2) 日独のチャットにおける挨拶場面の特徴
第8回	分析練習「若者ことば」
第9回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション
第10回	文学作品におけるコミュニケーション(1) かけひきとしての「スタイルシフト」
第11回	文学作品におけるコミュニケーション(2) 「選好」されない返答
第12回	分析練習「話しことばと書きことば」
第13回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション
第14回	分析練習「しりとり」
第15回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション

### 授業方法

グループディスカッションの機会を多く取り入れます。また、知識習得だけではなく、実際に分析する練習をします。分析結果のプレゼンテーションも重視します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

学んだ概念や分析手法をしっかり復習してください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

分析結果のプレゼンなど、授業中にフィードバックします。

### 教科書

日本語を分析するレッスン,野田尚史・野田春美,大修館書店,初,2017,978-4-469-21362-1

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U350300104	科目ナンバリング	035B311
科目名	言語・情報コース 専門演習(4)		
副題	言語コミュニケーション論(ドイツ語と日本語を分析する)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	白井 宏美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 中央-507		

### 授業概要

言語コミュニケーションに関して、談話分析、会話分析、語用論、社会言語学などからアプローチする研究を提示します。その際、日独比較(日本語とドイツ語、日本文化とドイツ文化)の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、対面会話、チャット、戯曲、映画、マンガ、漫才などから人とロボットのコミュニケーションに至るまで広範囲に及びます。

### 到達目標

談話分析、語用論の研究領域におけるの基本概念を習得し、言語・非言語行動について分析、説明する力と日独比較研究を遂行するために必要な能力・知識を身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	映画におけるコミュニケーション(1) 会話の構造
第2回	映画におけるコミュニケーション(2) 登場人物の性格づけ
第3回	分析練習「マンガのことば」
第4回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション
第5回	マルチモーダル・コミュニケーション(1) 「わからない」の可視化
第6回	マルチモーダル・コミュニケーション(2) 視線はずし
第7回	分析練習「会話の失敗」
第8回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション
第9回	人とロボットのコミュニケーション(1) 人とロボットの漫才
第10回	分析練習「漫才のことば」
第11回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション
第12回	人とロボットのコミュニケーション(2) ロボット・トーク
第13回	分析練習「外国の人の日本語」
第14回	分析結果のプレゼンテーションとディスカッション
第15回	まとめと理解度確認

### 授業方法

グループディスカッションの機会を多く取り入れます。また、知識習得だけではなく、実際に分析する練習をします。分析結果のプレゼンテーションも重視します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

学んだ概念や分析手法をしっかり復習してください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

分析結果のプレゼンなど、授業中にフィードバックします。

### 教科書

日本語を分析するレッスン,野田尚史・野田春美,大修館書店,初,2017,978-4-469-21362-1

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3503001Z1	科目ナンバリング	035B311
科目名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	Aktuell gesprochenes Deutsch		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	STRASSHEIM, Jan		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西1-302		

### 授業概要

Mit Hilfe von audiovisuellen Lernprogrammen aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“ auf dem Niveau C1 sollen Kenntnisse der aktuell bezogenen und gegenwärtig gesprochenen Sprache ausgebaut werden.

### 到達目標

Ausbau eines fortgeschrittenen Hörverständnisses; Ausbau eines aktuell anwendbaren Wortschatzes

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses. Einführung in die Benutzung des Internetprogramms der „Deutschen Welle“
第2回	Thema 1
第3回	Fortführung Thema 1
第4回	Fortführung Thema 1
第5回	Thema 2
第6回	Fortführung Thema 2
第7回	Fortführung Thema 2
第8回	Thema 3
第9回	Fortführung Thema 3
第10回	Fortführung Thema 3
第11回	Thema 4
第12回	Fortführung Thema 4
第13回	Fortführung Thema 4
第14回	Test (Themen 1-4)
第15回	Wiederholung

### 授業方法

Vor jedem aktuellen Thema erfolgt eine gemeinsame Einarbeitung in den Wortschatz. Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer sehen ein Video oder hören eine Audio-Datei mehrmals. Sie füllen dann einen Lückentext aus. Es folgen die Vertiefung des Wortschatzes mit Hilfe des Glossars sowie weitere Übungen, teils in Gruppen. Den Abschluss bildet eine Diskussion des Themas.

Grundlage sind folgende zwei Arten von Materialien aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“:

- 1) Video-Thema (zwei- bis fünfminütige Videos mit interessanten Beiträgen zu vielfältigen Themen, dazu ein Manuskript plus Glossar und Übungen)
- 2) Top-Thema (wöchentlich aktualisierte Audio-Dateien mit Vokabeln, Text und Übungen)

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Deutschkenntnisse auf dem Niveau C1 werden vorausgesetzt.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Mündliches Feedback

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第一回目の授業に出席すること。



講義コード	U3503001Z2	科目ナンバリング	035B311
科目名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	Aktuell gesprochenes Deutsch		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	STRASSHEIM, Jan		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西1-302		

### 授業概要

Mit Hilfe von audiovisuellen Lernprogrammen aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“ auf dem Niveau C1 sollen Kenntnisse der aktuell bezogenen und gegenwärtig gesprochenen Sprache ausgebaut werden.

### 到達目標

Ausbau eines fortgeschrittenen Hörverständnisses; Ausbau eines aktuell anwendbaren Wortschatzes

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Thema 5
第2回	Fortführung Thema 5
第3回	Fortführung Thema 5
第4回	Thema 6
第5回	Fortführung Thema 6
第6回	Fortführung Thema 6
第7回	Thema 7
第8回	Fortführung Thema 7
第9回	Fortführung Thema 7
第10回	Thema 8
第11回	Fortführung Thema 8
第12回	Fortführung Thema 8
第13回	Fortführung Thema 8
第14回	Test (Themen 5-8)
第15回	Wiederholung

### 授業方法

Vor jedem aktuellen Thema erfolgt eine gemeinsame Einarbeitung in den Wortschatz. Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer sehen ein Video oder hören eine Audio-Datei mehrmals. Sie füllen dann einen Lückentext aus. Es folgen die Vertiefung des Wortschatzes mit Hilfe des Glossars sowie weitere Übungen, teils in Gruppen. Den Abschluss bildet eine Diskussion des Themas.

Grundlage sind folgende zwei Arten von Materialien aus dem Internet-Service der „Deutschen Welle“:

- 1) Video-Thema (zwei- bis fünfminütige Videos mit interessanten Beiträgen zu vielfältigen Themen, dazu ein Manuskript plus Glossar und Übungen)
- 2) Top-Thema (wöchentlich aktualisierte Audio-Dateien mit Vokabeln, Text und Übungen)

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Deutschkenntnisse auf dem Niveau C1 werden vorausgesetzt.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Mündliches Feedback

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第一回目の授業に出席すること。

講義コード	U3503001Z3	科目ナンバリング	035B311
科目名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-504		

### 授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

### 到達目標

- ・ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

### 授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

### 授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、小発表およびディスカッションなどを考えていますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

中高ドイツ語文法そのものの学習および原典講読をするか否かも、受講者の関心・希望をきいた上で決定します。

### 準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。

本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

**教科書コメント**

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3503001Z4	科目ナンバリング	035B311
科目名	◇言語・情報コース 専門演習		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-504		

### 授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

### 到達目標

- ・ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	現代の中世観
第4回	続き
第5回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第6回	続き
第7回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第8回	続き
第9回	中世ドイツ文学の詩人たち
第10回	続き
第11回	続き
第12回	続き
第13回	続き
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

### 授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

### 授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の購読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、小発表およびディスカッションなどを考えていますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。中高ドイツ語文法そのものの学習および原典購読をするか否かも、受講者の関心・希望をきいた上で決定します。

### 準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

### 教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350301101	科目ナンバリング	035B321
科目名	文学・文化コース 専門演習(1)		
副題	Kinderliteratur (1)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 西2-505		

### 授業概要

こどもは中世までは単なる小さな大人であり、労働力としても使われていました。こどものために特別な教育が必要である存在として考えられるようになるのは17～18世紀頃で、近代の小家族制度が市民階層に普及し始める時代です。1762年に刊行されたジャン＝ジャック・ルソーの『エミール、または教育について』は、ドイツ語圏においてもこどもの教育に大きな影響を与えました。18世紀末からはこども向けの文学作品が作られ始め、ペスタロッチやフレーベルなど、後の幼児教育にも大きな影響を与える教育論が書かれるようになります。19世紀半ば頃からは、「よい子」の規範から外れた「わんぱくなこども」をテーマとした作品も出版されるようになります。この授業では、「こども」の教育と児童文学の関係を時代の変化とともに考察します。

### 到達目標

「こども」の概念の変化を時代背景とともに把握することによって、教育論と児童文学の具体例を分析し考察すること、また現代における児童教育と児童文学を考える力を養成することを目標とします。発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報表記方法など)を習得することも目標とします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(こどもの「発見」)
第2回	ルソー『エミール』(1) 部分読解
第3回	ルソー『エミール』(2) 男・女の教育目標の相違とジェンダー・バイアス
第4回	こども向けの作品の始まり:ロビンソン・ジュニアを読む(1) 理想像
第5回	こども向けの作品の始まり:ロビンソン・ジュニアを読む(2) 理想像の問題点
第6回	フレーベルの教育論
第7回	ペスタロッチの教育論
第8回	「よい子」ではないこども:『もじゃもじゃペーター』(1) 作品読解
第9回	「よい子」ではないこども:『もじゃもじゃペーター』(2) 作品分析
第10回	「よい子」ではないこども:Max und Moriz (1) 作品読解
第11回	「よい子」ではないこども:Max und Moriz (2) 作品分析
第12回	こどもの目線:デーメール(Fitzebutze) (1) 作品読解
第13回	こどもの目線:デーメール(Fitzebutze) (1) 作品分析
第14回	19世紀における児童文学についての総括
第15回	到達度確認

### 授業方法

2回～7回は共通テキストによるグループワークを中心にを行い、8回～13回は発表を中心に進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそって、テキストを読み、必要な資料を検索し、重要事項をまとめておく。(約2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	選んだテーマについての発表

### 成績評価コメント

評価のポイントは以下のとおり。(1)授業の準備を課題によって十分に行っているか、(2)準備をもとにしてグループワークに積極的に参加しているか、(3)十分に準備をした上で発表を行っているか、(4)授業全体の趣旨を理解した上でレポート作成上のルールを守ってレポートが書かれているか。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業準備のための課題については、その都度評価を付した上で返却します。またレポートについては、レポート作成の際に指示する

評価基準の各項目にそって評価を示し、返却します。

#### **教科書コメント**

著作権に留意した上でプリントを配布します。

#### **参考文献コメント**

授業中に適宜指示します。

#### **履修上の注意**

第1回目の授業にかならず出席してください。  
履修者数制限あり。

#### **その他**

授業に欠席する場合には、事前に担当者にメールで連絡をすること。



講義コード	U350301102	科目ナンバリング	035B321
科目名	文学・文化コース 専門演習(2)		
副題	Kinderliteratur (2)「おとな」と児童文学		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 西2-505		

### 授業概要

ドイツ語圏の児童文学作家として有名なエーリヒ・ケストナーは、8歳から80歳の「こども」のために作品を書いたと述べています。児童文学というジャンルに入れられる作品であっても、作者は大人の読者も念頭に入れていることがあります。ケストナーの他に、ミヒャエル・エンデもファンタジーを離れた「おとな」の世界への警鐘を作品に込めています。この授業では、第1学期で学んだ児童文学の歴史を踏まえた上で、ケストナーとエンデの作品が児童文学の範囲を超えて、「おとな」に対して何を発信しているのかを考察します。

### 到達目標

児童文学の特性を踏まえた上で、児童文学というジャンルを用いて作家が社会に対して発しているメッセージを読み取ることを目標とします。また発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報の表記方法など)を習得することも目標とします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ヴァイマル期とケストナー
第3回	作品における大人の描写
第4回	ケストナーの「児童文学」(1)『エーミールと探偵たち』(作品分析)
第5回	ケストナーの「児童文学」(2)『点子ちゃんとアントン』(作品分析)
第6回	ケストナーの「児童文学」(3)『飛ぶ教室』(作品分析)
第7回	ケストナーの「児童文学」(4)『ふたりのロッテ』(作品分析)
第8回	ケストナーの詩と散文から見る社会批判
第9回	ケストナーの立ち位置(ケストナーの「モラル」とは何か)
第10回	エンデの作品における「こども」と「おとな」(1)『モモ』
第11回	エンデの作品における「こども」と「おとな」(2)『はてしない物語』
第12回	エンデにおける社会批判(1)ファンタジーの喪失
第13回	エンデにおける社会批判(2)ファンタジーと現代社会
第14回	児童文学の可能性
第15回	到達度確認

### 授業方法

2回・3回、8回・9回、12回・13回は共通テキストによるグループワークを行い、それ以外の回は発表を中心に進めていきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそって、テキストを読み、必要な資料を検索し、重要事項をまとめておく。(約2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	選んだテーマについての発表

### 成績評価コメント

評価のポイントは以下のとおり。(1)授業の準備を課題によって十分に行っているか、(2)準備をもとにしてグループワークに積極的に参加しているか、(3)十分に準備をした上で発表を行っているか、(4)授業全体の趣旨を理解した上でレポート作成上のルールを守ってレポートが書かれているか。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業準備のための課題については、その都度評価を付した上で返却します。またレポートについては、レポート作成の際に指示する評価基準の各項目にそって評価を示し、返却します。

### 教科書コメント

著作権に留意した上でプリントを配布します。

#### **参考文献コメント**

授業中に適宜指示します。

#### **履修上の注意**

第1回目の授業にはかならず出席してください。  
履修者数制限あり。

#### **その他**

授業に欠席する場合には、事前に担当者にメールで連絡をすること。

講義コード	U350301103	科目ナンバリング	035B321
科目名	文学・文化コース 専門演習(3)		
副題	メロドラマ映画の系譜		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	荒井 泰		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 南3-301		

### 授業概要

映画監督ダグラス・サークは、もともとベルリンで活躍していた舞台の演出家・映画監督でしたが、ナチスを逃れてドイツを去りました。宗教美術にも精通した知識人のサークでしたが、ハリウッドでは、一見するときわめて娯楽的な「メロドラマ映画」の名手として知られるようになります。しかし、そのような作風は、収入を得るために異国の「業界」に飲み込まれたことを意味してはいませんでした。実は、彼にとってのメロドラマは、単なる内容の薄っぺらい、お涙頂戴ものではなく、近代化以降の西洋社会の構造を映し出す「鏡」の役割を果たしていたのです。サークのメロドラマは、後世にもおおきな影響をあたえました。とくに、戦後ドイツ映画を代表する監督R.W.ファスビンダーは、サークの影響下で戦後ドイツ社会を批判的に描くメロドラマ映画をいくつも作りました。こうしたサークの系譜は、ドイツではファティ・アキン、ハリウッドではトッド・ヘインズなどによって今日なお、受け継がれています。この授業では、メロドラマの映画理論的意義を理解したうえで、ドイツ映画を中心に、映画史における「メロドラマの系譜」を概観したいとおもいます。

### 到達目標

映画理論の基礎を学ぶと同時に、個別の作品の分析をとおして、映像分析の基礎を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(この授業の目的と概要)
第2回	メロドラマ概論(1) 「メロドラマ」の歴史
第3回	メロドラマ概論(2) メロドラマ映画史
第4回	メロドラマ概論(3) メロドラマの社会批判性
第5回	ヴィンセント・ミネリとメロドラマ
第6回	ダグラス・サークとメロドラマ(1) 『世界の涯てに』分析
第7回	ダグラス・サークとメロドラマ(2) 『天はすべてを許し給う』分析
第8回	ダグラス・サークとメロドラマ(3) 『悲しみは空の彼方に』分析
第9回	ファスビンダーとメロドラマ(1) 『四季を売る男』分析
第10回	ファスビンダーとメロドラマ(2) 『不安は魂を食いつくす』分析
第11回	ファスビンダーとメロドラマ(3) 『マリア・ブラウンの結婚』分析
第12回	トッド・ヘインズとメロドラマ
第13回	ファティ・アキンとメロドラマ
第14回	まとめ
第15回	予備日

### 授業計画コメント

受講者と相談の上、授業計画は一部変更になる可能性があります。

### 授業方法

毎回、授業のはじめに概説をした上で、口頭発表とディスカッションを行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前学習には資料の読み込みが求められる。事後学習と合わせて最大240分程度の学習が想定される。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	自分なりの考察と文章の組み立て方。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、口頭発表、ディスカッションへの参加度
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭発表中心の授業のため、都度授業内で各発表者に対してコメントを行う。

**教科書コメント**

プリントを配布。

**参考文献コメント**

教場で指示する。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350301104	科目ナンバリング	035B321
科目名	文学・文化コース 専門演習(4)		
副題	ファッションと映画		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	荒井 泰		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 南3-301		

### 授業概要

ファッションと映画は密接にかかわっています。たとえば、ドイツ出身のハリウッドの巨匠ビリー・ワイルダー監督作品『麗しのサブリナ』のなかで、オーディリー・ヘップバーンが着るジバンシィの衣装は、おおくの観客たちの憧れの的になりました。そのように映画におけるファッションは、作品世界に欠かせない要素でありながら、同時代のカルチャーに影響をあたえてきました。しかしそれだけではなく、歴史ドラマにおいては、ファッションは、それぞれの時代の社会・文化を伝えるための重要な道具にもなります。お侍さんがタキシードを着ているわけにはいきません。この授業では、西洋服飾史を概観したうえで、以下のふたつの観点から、「ファッションと映画(とくにドイツ映画)」というテーマについて考えてみようとおもいます。ひとつには、ドイツ映画がファッション界に与えた影響(たとえば、ドイツ表現主義映画を代表する『カリガリ博士』は、かつてアレクサンダー・マックイーンのコレクションに、近年では『クリスチーネ・F』がラフ・シモンズのコレクションに取り入れられています)。もうひとつには、ドイツ映画に取り入れられたファッション(たとえば、戦後ドイツ映画を代表するヴィム・ヴェンダースは、山本耀司のドキュメンタリー映画を撮りました)。受講者の皆さんには、「ファッション」と「映画」というふたつの異なるジャンルの影響関係に目を向けながら、ヨーロッパの視覚表現とその背景にある社会・文化に関心をもってもらえたらよいなと思っています。

### 到達目標

西洋服飾史と映像分析をとおして、ヨーロッパの視覚表現とその背景にある社会・文化を理解する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(この授業の目的と概要)
第2回	西洋服飾史(1) 西洋服飾史の成立
第3回	西洋服飾史(2) 西洋服飾史の発展
第4回	映画における服飾
第5回	ドイツ表現主義映画とファッション(1) 『カリガリ博士』
第6回	ドイツ表現主義映画とファッション(2) 『ノスフェラトゥ』
第7回	ドイツ表現主義映画とファッション(3) 『メトロポリス』
第8回	ヴェンダース映画とファッション(1) 『時の翼にのって』
第9回	ヴェンダース映画とファッション(2) 『都市とモードのビデオノート』
第10回	ヴェンダース映画とファッション(3) ヴェンダースとジル・サンダー
第11回	ファスビンダー映画とファッション(1) 『ペトラ・フォン・カントの苦い涙』
第12回	ファスビンダー映画とファッション(2) 『ケレル』
第13回	『クリスチーネ・F』とラフ・シモンズ
第14回	まとめ
第15回	予備日

### 授業計画コメント

受講者と相談の上、授業計画は一部変更になる可能性があります。

### 授業方法

毎回、授業のはじめに概説をした上で、口頭発表とディスカッションを行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前学習には資料の読み込みが求められる。事後学習と合わせて最大240分程度の学習が想定される。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	自分なりの考察と文章の組み立て方。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席、口頭発表、ディスカッションへの参加度。
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭発表中心の授業のため、都度授業内で各発表者に対してコメントを行う。

**教科書コメント**

プリントを配布。

**参考文献コメント**

教場で指示する。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350301105	科目ナンバリング	035B321
科目名	文学・文化コース 専門演習(5)		
副題	世紀転換期ウィーンにおける性愛		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	遠藤 浩介		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西1-212		

### 授業概要

オーストリア・ハンガリー二重帝国の首都であり帝国随一の大都市だったウィーンでは、1900年頃に美術・建築・音楽・演劇・文学といった各文化領域で「世紀末ウィーン文化」と呼ばれる都市文化が開花しました。この「世紀末ウィーン」の特徴として挙げられる文化現象やテーマには様々なものがありますが、そのひとつの特徴として性愛や官能性の強調が挙げられます。19世紀市民文化の特徴でもある厳格な性規範や市民的家族像といったものが揺らぎ始めたなかで、学術分野ではジークムント・フロイトの精神分析、造形芸術ではウィーン分離派に集まった芸術家、そして文学の世界ではアルトゥール・シュニッツラーなどの作家が、男女の性愛や性欲といったそれまでタブー視されてきたテーマに果敢に挑戦していきます。この授業ではクリムトの絵画作品に描かれた女性像やシュニッツラーの文学作品を分析し、また19世紀後半から20世紀初頭における性道徳や性規範を論じた文献を読みながら、世紀転換期ウィーンにおける性規範の揺らぎや性愛の文化について考察していきます。これはひとつのテーマでまとめられる複数の作品をそれぞれ分析し比較すること、そして社会的・文化的背景と関連させながら文学作品や芸術作品を解釈することの練習にもなります。また性愛や不倫、家族、性規範といった問題は「未婚率の増加」やいわゆる「LGBT」、性教育の問題が社会的・政治的テーマになっている現在でもアクチュアルなトピックです。その意味では、この授業は現在の問題と関連づけながら歴史的テキストを分析する練習にもなります。最後にアカデミックスキル、とくに1)テキストの種類に応じた読み方をして正しく内容を把握すること、2)自分の意見を組み立てて発言し、議論のなかであらためて自分の意見をまとめていくこと、そして3)その意見を学術的なフォーマットに即した形でまとめることを練習するのも、この授業の目的になります。

### 到達目標

- ・世紀転換期ウィーンにおける性文化の基礎知識を得る。
- ・ひとつのテーマにそくして複数の文学作品や芸術作品を相互に比較検討し分析・解釈する力を身につける。
- ・現在の出来事と照らし合わせながら、歴史上の現象を考察できるようにする。
- ・アカデミックスキルを高める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入／世紀転換期ウィーンの社会と文化
第2回	分離派の成立と意義
第3回	クリムトの絵画(1)『接吻』分析
第4回	クリムトの絵画(2)『接吻』議論
第5回	クリムトの絵画(3)『ユディト』分析
第6回	クリムトの絵画(4)『ユディト』議論
第7回	クリムトの絵画(5)『ダフネ』分析
第8回	クリムトの絵画(6)『ダフネ』議論
第9回	世紀転換期ウィーンにおける女性解放と女性蔑視
第10回	シュニッツラー『夢小説』(1)第1章～第3章
第11回	シュニッツラー『夢小説』(2)第4章
第12回	シュニッツラー『夢小説』(3)第5章
第13回	シュニッツラー『夢小説』(4)第6章～第7章
第14回	シュニッツラー『夢小説』(6)仮面のモチーフと『アイズ・ワイド・シャット』(1)鑑賞と議論
第15回	振り返り

### 授業計画コメント

学生の関心や理解度に応じて、学生と相談の上で授業の進度や扱うテキストを変更することがある。

### 授業方法

あらかじめ取り組んでいただいた課題にそってグループおよび全体で議論をします。必要に応じて解説を加えます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

あらかじめ配布した絵画作品やテキストを分析し、課題に取り組む。なお読書ノートを作成すること。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

平常点:テキストの内容や自分の意見を正確にまとめ、それを口頭で表現できるか。また他の参加者の意見を聞いてそれに応答できるか。

レポート:授業での議論を発展させ、自分の意見を研究倫理にそった形式でレポートの形にまとめることができるか。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

期限内に提出したものについては、希望者にはコメントを添えて返却する。

#### 教科書

夢小説・闇への逃走 他一篇,シュニッツラー,岩波書店,1990

#### 教科書コメント

上記以外の資料はプリントで配布する。

#### 参考文献コメント

授業中に指示する。

#### 履修上の注意

- ・初回授業には必ず出席すること。
- ・履修希望者が30人を超えた場合には履修制限をすることがある。



講義コード	U350301106	科目ナンバリング	035B321
科目名	文学・文化コース 専門演習(6)		
副題	トーマス・マン『ヴェネツィアに死す』		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	遠藤 浩介		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西1-212		

### 授業概要

20世紀前半を代表する作家の一人であるトーマス・マンは、さまざまなモチーフをひとつのストーリーのなかに織り込む達人です。読者はただストーリーを追うだけでも楽しめますが、表面的なストーリーの影に隠れた、ときには冗長とも感じる部分にこそトーマス・マンの作品の真骨頂があります。

この授業ではそんなトーマス・マンの中編作品『ヴェネツィアに死す』を取り上げます。この作品では、ある老年の作家がイタリアのヴェネツィアで若い美少年に出会って恋をし、身を滅ぼすさまが描かれています。このようなストーリーを作りあげるにいたった背景には、マン自身のヴェネツィア滞在の経験や彼が読んだ本からのインスピレーションなどがあります。そしてまたマンは様々なヨーロッパ文学・文化のモチーフを作品のなかに取り入れてストーリーテリングに活かしていますが、そういったモチーフのひとつとして古代ギリシャ・ローマの文化や神話が挙げられます。この授業では作品のストーリーの奥底に隠れているものや舞台裏を探りつつ、これらがひとつのストーリーとしてまとめられている様子を分析します。

文学作品というものは作家の個人的体験だけでなく、さまざまな文化的・文学的伝統や同時代の社会的背景などと密接に関係しています。したがって、文学作品を読むためにはこうした文脈や背景についての知識を得ることが必要になりますし、こうした知識は実際の文学作品の読解のなかで使えなければなりません。これを練習することが授業のひとつの目的です。またアカデミックスキル、とくに1)テキストの種類に応じた読み方をして正しく内容を把握すること、2)自分の意見を組み立てて発言し、議論のなかであらためて自分の意見をまとめていくこと、そして3)その意見を学術的なフォーマットに即した形でまとめることを練習するのも、この授業の目的になります。

### 到達目標

- ・あるモチーフにもとづいて文学作品を読解するスキルを高める。
- ・アカデミックスキルを高める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	ストーリーを整理する(1)第1章～第2章
第3回	ストーリーを整理する(2)第3章
第4回	ストーリーを整理する(3)第4章～第5章
第5回	伝記的背景
第6回	作品の構成と登場人物の整理
第7回	ニーチェ『悲劇の誕生』と『ヴェネツィアに死す』(1)購読
第8回	ニーチェ『悲劇の誕生』と『ヴェネツィアに死す』議論
第9回	古代ギリシャ神話と『ヴェネツィアに死す』
第10回	プラトンと『ヴェネツィアに死す』(1)議論
第11回	プラトンと『ヴェネツィアに死す』(2)議論
第12回	プルタルコスと『ヴェネツィアに死す』(1)購読
第13回	プルタルコスと『ヴェネツィアに死す』(2)議論
第14回	まとめ
第15回	振り返り

### 授業計画コメント

学生の関心や理解度に応じて、学生と相談の上で授業の進捗や扱うテキストを変更することがある。

### 授業方法

あらかじめ取り組んでいただいた課題にそってグループおよび全体で議論をします。必要に応じて解説を加えます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

あらかじめ配布したテキストを分析し、課題に取り組む。なお読書ノートを作成すること。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

平常点:テキストの内容や自分の意見を正確にまとめ、それを口頭で表現できるか。また他の参加者の意見を聞いてそれに応答できるか。

レポート:授業での議論を発展させ、自分の意見を研究倫理にそった形式でレポートの形にまとめることができるか

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

期限内に提出したものについては、希望者にはコメントを添えて返却する。

#### 教科書

ヴェネツィアに死す,マン,光文社,2007

#### 参考文献コメント

授業中に指示する。

#### 履修上の注意

- ・初回授業には必ず出席すること。
- ・履修希望者が30人を超えた場合には履修制限をすることがある。

講義コード	U3503011Z1	科目ナンバリング	035B321
科目名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	記憶と文化(1)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 独文院生室		

### 授業概要

同じ出来事の実験であっても、それをどのような立場から経験したのかによって個人的な記憶は異なります。その意味では記憶は個人個人のレベルで異なるものですが、その記憶が世代を超えて語られる場合、個人を超えた記憶となります。さらに記憶がメディアや教育(教科書の歴史記述)、あるいは儀式や記念碑によって継承され共有される時に、集団のアイデンティティ形成に影響を与えます。記憶に関する研究は、1980年代頃から注目されるようになりますが、その背景にはドイツで第二次世界大戦の加害国としての責任問題を相対化しようとする歴史修正主義の台頭が一因となっていました。この授業では、記憶と文化的アイデンティティとの関係を、記憶研究の理論的なドイツ語基礎文献をA.アスマンの理論を中心として講読しつつ考察します。また適宜、日本との比較を行いながら進めていきます。

### 到達目標

記憶研究の基礎を習得し、個人的記憶が集団的記憶として形成される過程の特性と問題点を把握し、記憶と文化的アイデンティティの関係を具体的な事例に則して考察する力を養成することを目的とする。また発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報の表記方法など)を習得することも目標とします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	記憶文化の3つの次元
第3回	世代と記憶(1)45年世代
第4回	世代と記憶(2)68年世代
第5回	戦争経験者の世代の記憶
第6回	20世紀における世代的記憶の概観
第7回	家族の記憶
第8回	公的領域における記憶
第9回	演出される歴史(1):博物館と展示
第10回	演出される歴史(2):物語・展示・演出
第11回	演出される歴史(3):地方史からヨーロッパ史へ
第12回	歴史教科書の変遷
第13回	記憶とナショナル・アイデンティティ(1)
第14回	記憶とナショナル・アイデンティティ(2)
第15回	到達度確認

### 授業方法

テキスト講読とそれに基づいたディスカッションを中心に進めていきます。なおテキスト講読は、まずは該当箇所を要約し、その後で精読を行う形で進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

次回の授業で扱う箇所について、要約を書いておくこと。また翻訳は予め書かずに、その場でドイツ語を見ながら訳せるように準備しておくこと。(2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

授業準備の状況と授業への積極的な参加を評価のポイントとします。学部学生の場合には、大学院とは異なった基準により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業のために必要なテキストの予習(要約と精読に必要な予習)

### 教科書コメント

著作権を遵守した上でプリントで配布します。

### 参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。

### その他

授業に出席できない場合には、事前に担当者にメールで連絡してください。

講義コード	U3503011Z2	科目ナンバリング	035B321
科目名	◇文学・文化コース 専門演習		
副題	記憶と文化(2)		
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 独文院生室		

### 授業概要

第1学期で学んだ記憶の理論を基礎として、第2学期では記憶と表象可能性/不可能性について考察します。1960年代半ば頃までドイツでは、犯罪的なナチスの過去に蓋をし責任を回避する傾向が強かったのですが、その傾向に一石を投じたのが心理学者Margarete Mitscherlich/Alexander Mitscherlichの共著”Unfähigkeit zum Trauern”(1967)です。負の記憶は抑圧され封印されるというフロイトの記憶論に依拠して、ミッチャリヒ夫妻は戦後ドイツのメンタリティーを批判しました。この著書はその後ドイツにおいて加害国としての戦後責任を問い直す大きな流れに影響を与えました。一方で被害者の記憶は、それが言語化されることさえ困難であることは、フランスの映画監督クロード・ランズマンの『シヨア』(1985年、日本での公開は1997年)がよく示しています。元従軍慰安婦だった韓国女性が自らの体験を語り始めたのは、ようやく1991年になってからです。この授業では、加害者と被害者双方における記憶とその言語化(表象可能性)について、記憶研究の観点から論文を講読し、また現代の問題として考察していきます。

### 到達目標

記憶の抑圧に関する文献として”Unfähigkeit zum Trauern”の内容とその影響を理解し、記憶と歴史認識の関連を具体的な事例に即して考察する力を養成することを目標とします。また発表やレポート作成上必要な研究倫理(文献引用の仕方や文献情報の表記方法など)を習得することも目標とします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	“Unfähigkeit zum Trauern”: “Der »Führer« war an allem Schuld“
第3回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Erfolgreiche Abwehr einer Melancholie der Massen
第4回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Die Projektion unbewußter Rachephantasie
第5回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Verliebtheit in den Führer
第6回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Noch eine Möglichkeit für Trauer?
第7回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Psychoanalytische Anmerkung über die Kultureignung des Menschen
第8回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Tabu - Ressentiment - Rückständigkeit
第9回	“Unfähigkeit zum Trauern”: Identifikationsschicksale in der Pubertät
第10回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(1) 文献読解
第11回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(2) 文献読解
第12回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(3) 具体事例研究
第13回	被害者の記憶: 表象可能性/不可能性(4) 具体事例研究
第14回	総括の討論
第15回	到達度確認

### 授業方法

授業前半では“Unfähigkeit zum Trauern”の文献から重要な箇所を選択して精読します。後半では経験の表象可能性・不可能性に関する文献を精読します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

扱うテキストについて指定された箇所について要約を予め書いておくこと。また精読については訳を書かずにドイツ語からその場で翻訳できるように準備しておくこと。(約2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

予め指定されたテキストについての要約を書いているか、またテキストをドイツ語から翻訳できるように準備をしているかを評価のポイントとします。学部学生の場合には、大学院とは異なった基準により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回、次回に扱うテキスト箇所について、要約を書きしておくこと、またテキストの訳を書きおかないでその場でドイツ語から翻訳できるように準備しておくことを課題とします。

### 教科書コメント

著作権を遵守の上でプリントで配布します。

### 参考文献コメント

授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

第一回目の授業にかならず出席してください。

### その他

出席できない場合には、担当者に事前にメールで連絡をしてください。

講義コード	U350302101	科目ナンバリング	035B331
科目名	現代地域事情コース 専門演習(1)		
副題	日独比較政策1(環境政策を中心に)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡村 りら		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 西2-503		

### 授業概要

「環境」というと、自然や動物、気候や生態系など、私たちの生活とは直接的に関係しない分野、自然科学系の分野と思いませんか？

「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野とつながっていきます。授業のテーマは、ドイツの環境政策について日本であまり取り上げられていないもの、間違っ理解されることが多いものを中心に取ります。

予定しているテーマは  
 ・廃棄物問題から考える原子力発電  
 ・旧東ドイツにおける環境政策  
 ・リサイクル問題/デポジット制度  
 ・生物多様性</div>  
 ・環境と街づくり  
 ・コスト、ビジネスチャンスから見るエネルギー政策  
 など

### 到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることで、ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにします。、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることによって日本についての理解も深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テーマ① 担当者によるレクチャー(講義形式)
第3回	担当者によるレクチャー/ 発表の事前準備
第4回	テキスト分析/発表・討論
第5回	テキスト分析/発表・討論
第6回	テキスト分析/発表・討論
第7回	テキスト分析/発表・討論
第8回	テーマ① 総括
第9回	テーマ② 担当者によるレクチャー(講義形式)
第10回	担当者によるレクチャー/ 発表の事前準備
第11回	テキスト分析/発表・討論
第12回	テキスト分析/発表・討論
第13回	テキスト分析/発表・討論
第14回	テキスト分析/個人発表・討論
第15回	テーマ② 総括

### 授業計画コメント

扱うテーマは最初の授業で決定します。

### 授業方法

1回の授業を2つに分けます。  
 授業前半:テキスト分析(環境に関する簡単なドイツ語の文章を読む)  
 授業後半:個人/グループ発表

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

指定されたテキストを予習し、授業で扱った内容に関して各自フォローアップを行ってください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

#### 成績評価コメント

授業への貢献度(自ら関心を広げ、質問・意見交換を活発に行っているか)  
 発表(調べ学習とならないよう、時間内に問題提起・論証をきちんと行えているか)  
 小テスト(授業で扱った単語テスト、および発表の内容に関する内容確認)  
 これらを総合的に評価します。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業前後の面談およびメールで対応します。

#### 教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

#### 参考文献コメント

発表の内容によって、適宜、授業内で指示します。

#### 履修上の注意

授業の進め方、テーマは、履修者の数によって多少変更する可能性があります。  
 履修者数制限あり。第一回目の授業に必ず出席してください。



講義コード	U350302102	科目ナンバリング	035B331
科目名	現代地域事情コース 専門演習(2)		
副題	日独比較政策2 (環境政策を中心に)		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	岡村 りら		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 西2-503		

### 授業概要

「環境」というと、自然や動物、気候や生態系など、私たちの生活とは直接的に関係しない分野、自然科学系の分野と思いませんか？

「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野とつながっていきます。授業のテーマは、ドイツの環境政策について日本であまり取り上げられていないもの、間違っ理解されることが多いものを中心に取ります。

予定しているテーマは  
 ・廃棄物問題から考える原子力発電  
 ・旧東ドイツにおける環境政策  
 ・リサイクル問題/デポジット制度  
 ・生物多様性</div>  
 ・環境と街づくり  
 ・コスト、ビジネスチャンスから見るエネルギー政策  
 など

### 到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることで、ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにします。、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることで日本についての理解も深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テーマ① 担当者によるレクチャー(講義形式)
第3回	担当者によるレクチャー/ 発表の事前準備
第4回	テキスト分析/発表・討論
第5回	テキスト分析/発表・討論
第6回	テキスト分析/発表・討論
第7回	テキスト分析/発表・討論
第8回	テーマ① 総括
第9回	テーマ② 担当者によるレクチャー(講義形式)
第10回	担当者によるレクチャー/ 発表の事前準備
第11回	テキスト分析/発表・討論
第12回	テキスト分析/発表・討論
第13回	テキスト分析/発表・討論
第14回	テキスト分析/個人発表・討論
第15回	テーマ② 総括

### 授業計画コメント

扱うテーマは最初の授業で決定します。

### 授業方法

1回の授業を2つに分けます。  
 授業前半:テキスト分析(環境に関する簡単なドイツ語の文章を読む)  
 授業後半:個人/グループ発表

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

指定されたテキストを予習し、授業で扱った内容に関して各自フォローアップを行ってください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	

#### **成績評価コメント**

授業への貢献度(自ら関心を広げ、質問・意見交換を活発に行っているか)  
 発表(調べ学習とならないよう、時間内に問題提起・論証をきちんと行えているか)  
 小テスト(授業で扱った単語テスト、および発表の内容に関する内容確認)  
 これらを総合的に評価します。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業前後の面談およびメールで対応します。

#### **教科書コメント**

適宜、授業内で指示します。

#### **参考文献コメント**

発表の内容によって、適宜、授業内で指示します。

#### **履修上の注意**

授業の進め方、テーマは、履修者の数によって多少変更する可能性があります。  
 履修者数制限あり。第一回目の授業に必ず出席してください。

講義コード	U350302103	科目ナンバリング	035B331
科目名	現代地域事情コース 専門演習(3)		
副題	「1968」:西ドイツの事例を中心に		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	木村 裕一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西2-506		

### 授業概要

反原発・環境運動、平和・反核運動、女性運動など、現在主流となった政治的なテーマは全ていわゆる「68年運動」を経て世間一般にも認識されるようになったと言われています。1960年代の「学生」たちは当時、活発に議論を行い、行動を起こし、様々な方法で社会を変革しようとしていました。また政治・思想に加え、ライフスタイルの大幅な変化も生じました。既成概念や伝統的価値観に対抗するカウンター・カルチャーもこのような意識改革と結びつき、とりわけロック・ミュージックは「大人」に対抗する「若者」たちによって共有され、爆発的に広まりました。このような運動の中心となった学生たちは、当時どのような思想や価値観を持ち、どのような行動に出たのでしょうか。この授業では西ドイツにおける学生運動の事例や思想的背景を取り上げ、政治や社会を大きく変えたと言われる「68er」について考察していきます。

### 到達目標

- ・西ドイツにおける「68年運動」においてどのような思想や文化が生じたのか、実際に当時のテキストや作品を観察することで、現在の社会運動との関連性について分析します。
- ・プレゼンテーションやディスカッションといった実践を通じ、特定のテーマを調査するために必要な文献・情報収集や情報整理のためのテクニックを身につけてもらいます。
- ・ドイツ語資料を用いる場合、それらを単に訳読するだけでなく、自分の意見を主張するための「材料」として使いこなせるようにするための読解力や論理力を訓練します。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業についてのガイダンス
第2回	「68年」世代の親たち
第3回	大学民主化要求・自治活動
第4回	議会外反対派(APO)
第5回	ヴェトナム反戦運動
第6回	学生運動の急進化・過激化
第7回	「68年」におけるポップカルチャー:慣習への抵抗としての新たな身体文化
第8回	ライフスタイル革命
第9回	対抗メディア
第10回	新しい社会運動(1): 反核・平和運動、女性運動
第11回	新しい社会運動(2): 反原発・環境運動
第12回	学生運動の思想的背景(1): フランクフルト学派
第13回	学生運動の思想的背景(2): ルディ・ドゥチュケ
第14回	授業のまとめ、ディスカッション
第15回	予備日

### 授業計画コメント

参加者の興味関心にもとづき、適宜予定を修正する可能性があります

### 授業方法

発表、講読およびグループディスカッションを中心とした演習形式です。また、適宜グループ・ディスカッションを行います。授業の最後には必ずリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭で、その内容についていくつか紹介します。それに基づき話題を膨らませ、新しい議論へとつなげていきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

テキストの予習(60分)、ディスカッションの準備(30分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

平常点：授業中の発言回数やリアクションペーパーの提出率、またそれぞれの内容などを総合的に集計して算出します

レポート：与えられた課題について、調査や資料研究に基づき考察・論証ができており、レポートとしての体裁が整っているかどうか  
が基準となります

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に直接指示・コメントを行い、必要に応じてメールで対応します。

#### 教科書コメント

授業時にプリントを配布します。

#### 参考文献コメント

授業時に指示します。

#### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U350302104	科目ナンバリング	035B331
科目名	現代地域事情コース 専門演習(4)		
副題	演出される〈リアリティ〉		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	木村 裕一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西2-506		

### 授業概要

映画『帰ってきたヒトラー』のなかでは、「リアリティ・ショー」というテレビ番組のフォーマットが演出として巧みに取り入れられています。これは様々な事態や状況に対して出演者が即興で反応し、「生の」「素の」「リアルな」場面を映し出すことで臨場感を演出する形式のことを指します。しかしそもそも私たちの眼前に広がっているはずの「リアル」を改めて、メディアを通して見るという形式が、なぜ断続的に流行するのでしょうか。また2016年には、ドイツ語協会(GfdS)が「今年の言葉(Wort des Jahres)」として“postfaktisch”を選出しました。「事実の後」というのが直訳的な意味ですが、「事実」と「リアル」のあいだの関係がどのように変容しているのかを考える上で、出発点となる言葉です。「後」に一体何が来ているのでしょうか。自分たちにとって「リアル」とみなせるものが様々な媒体手段によって演出されることは、現代における「リアリティ」の変容とどのように関わっているのか、というのは興味深い問題です。この授業では演出される「リアリティ」をテーマとし、ドイツ語圏のメディアやニュース、論文等を取り上げ、そこに表れる各トピックについて考察していきます。

### 到達目標

- ・「リアリティ」を巡る議論に表れる用語や思想的背景を把握し、それらにもとづき具体的事例を分析し、問題提起できるようになることを目指します。
- ・プレゼンテーションやディスカッションといった実践を通じ、特定のテーマを調査するために必要な文献・情報収集や情報整理のためのテクニックを身につけてもらいます。
- ・ドイツ語資料を用いる際、それらを単に訳読するだけでなく、自分の意見を主張するための「材料」として使いこなすための読解力や論理力を訓練します。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業についてのガイダンス
第2回	“postfaktisch”(1): どういう意味か
第3回	“postfaktisch”(2): 言葉がもつ背景
第4回	“postfaktisch”(3): リアルとファクトの違いとは
第5回	リアリティ・ショー(1): 概要
第6回	リアリティ・ショー(2): リアルの演出とは何か
第7回	ポップカルチャーにおけるリアルネス(1): ヒップホップ文化
第8回	ポップカルチャーにおけるリアルネス(2): ドイツ・ヒップホップと「フェイク」
第9回	ポップカルチャーにおけるリアルネス(3): 「オーセンティック」であるとは何か
第10回	リアリティを巡る思想的背景(1): 「物語」としての歴史
第11回	リアリティを巡る思想的背景(2): 〈現実／虚構〉という対立関係の批判
第12回	『帰ってきたヒトラー』(1): ドキュメンタリーとリアリティ・ショーの境界
第13回	『帰ってきたヒトラー』(2): プロパガンダとリアリティの関係
第14回	授業のまとめ、ディスカッション
第15回	予備日

### 授業計画コメント

参加者の興味関心にもとづき、予定を修正する可能性があります。

### 授業方法

発表、講読およびグループディスカッションを中心とした演習形式です。また、適宜グループ・ディスカッションを行います。授業の最後には必ずリアクションペーパーを提出してもらい、次回授業の冒頭で、その内容についていくつか紹介します。それに基づき話題を膨らませ、新しい議論へとつなげていきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

テキストの予習(60分)、ディスカッションの準備(30分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

平常点： 授業中の発言回数やリアクションペーパーの提出率、またそれぞれの内容などから集計・算出します

レポート： 与えられた課題について、調査や資料研究に基づき考察・論証ができており、レポートとしての体裁が整っているかどうか  
が基準となります

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に直接指示・コメントを行い、必要に応じてメールで対応します。

#### 教科書コメント

授業時にプリントを配布します。

#### 参考文献コメント

授業時に指示します。

#### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U350302105	科目ナンバリング	035B331
科目名	現代地域事情コース 専門演習(5)		
副題	グローバル化によるドイツ社会の変容		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	島村 賢一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 中央-508		

### 授業概要

この授業ではグローバル化によるドイツ社会の変容を考察する。最初にドイツの社会学者ウルリヒ・ベックの邦訳書『世界リスク社会論』の特に序章「日本語版への序文」と第1章「言葉が失われるとき」を講読し、国民国家中心からグローバル社会中心への構造的な転換のもつ意味の理解を深める。さらにドイツの各新聞や雑誌等に掲載された記事(独語)を講読し、ドイツの政治や経済や社会の基本的な理解を深め、移民問題や難民問題など現代ドイツ社会の諸相に迫る。これらを踏まえ、受講生各自が興味をもった現代ドイツの問題についてリサーチし、各自が報告を行う。各報告の後には質疑応答の時間を設け、ディスカッションを行う。

### 到達目標

1.現代ドイツ社会を理解する上で必要となるグローバル化についての基本的な社会学的概念を把握し、駆使できるようになる。2.時事問題に関するドイツ語に習熟し、ドイツの各種メディアに用いられている文章を正確に迅速に読めるようになる。3.自分の興味をもった時事問題に関して、情報を収集し、分析し、適切に報告ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、現代ドイツ社会とグローバル化に関する基本的な留意点
第2回	ウルリヒ・ベックの社会理論の基本的な特質
第3回	グローバル社会におけるリスク
第4回	ベックの『世界リスク社会論』(1)世界開放国家と監視国家
第5回	ベックの『世界リスク社会論』(2)テロと戦争
第6回	ベックの『世界リスク社会論』(3)生態系の危機と環境破壊
第7回	現代ドイツの政治と経済と社会一各制度に関する基本的な知識
第8回	現代ドイツの時事問題に関する記事の講読(1)
第9回	現代ドイツの時事問題に関する記事の講読(2)
第10回	現代ドイツの時事問題に関する記事の講読(3)
第11回	現代ドイツの時事問題に関する記事の講読(4)
第12回	受講生による時事問題に関するレポート発表(1)
第13回	受講生による時事問題に関するレポート発表(2)
第14回	授業のまとめ、小テスト
第15回	振り返り

### 授業方法

基本的に演習形式(ただし第2回と第3回だけは講義形式)

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

・授業前に予め教科書や講読予定文章の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと(1～2時間)。・授業時に受けた指摘事項を復習すること(1～2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

レポートはレポートとしての形式を踏まえているかということをチェックする(詳細については授業時に指摘する)。小テストは授業時に習得した基本的知識を確認するためのものである。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては各自発表時にこちらからコメントをする。小テストについては、テスト後にこちらから模範解答を呈示し、解説をする。

## **教科書**

世界リスク社会論:ちくま学芸文庫,ウルリッヒ・ベック,筑摩書房,第3,2010,978-4-480-09310-3

## **教科書コメント**

上記の本以外は、授業時に逐次、プリントを配布する。

## **参考文献コメント**

授業時に逐次、紹介する。

## **履修上の注意**

第1回の授業(ガイダンス)には必ず、出席すること。履修者数制限あり。



講義コード	U350302106	科目ナンバリング	035B331
科目名	現代地域事情コース 専門演習(6)		
副題	ドイツの過去の克服と欧州統合		
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies		
担当者名	島村 賢一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 中央-508		

### 授業概要

この授業ではドイツと欧州統合、EUとの関連を考察する。最初にEUの歴史をその前身である1950年代のECSCにまで遡り、特に独仏の和解に焦点を絞りながら、考察する。さらに戦後ドイツの政策の基軸でもあった過去の克服の歴史についても学習する。そしてドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックの邦訳書『ユーロ消滅?』を講読し、EUにおける支配力を強めるドイツの実態について社会学的な分析をする。さらにドイツの各新聞や雑誌等に掲載された記事(独語)を講読し、ドイツの外交と他のEU諸国との関係についても考察する。これらを踏まえ、受講生各自が興味をもった問題についてリサーチし、各自が報告を行う。各報告の後には質疑応答の時間を設け、ディスカッションを行う。

### 到達目標

1. 欧州におけるドイツの位置付けを理解する上で必要となる戦後独仏の関係史、欧州統合の歴史の基本的知識を習得する。2. EUとドイツとの関係を社会学的に分析できるようになる。3. 時事問題に関するドイツ語に習熟し、ドイツの各種メディアに用いられている文章を正確に迅速に読めるようになる。4. 自分の興味をもった時事問題に関して、情報を収集し、分析し、適切に報告ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、ドイツと他の欧州諸国を考察する際の基本的な留意点
第2回	戦後欧州の統合の歴史—ECSC、EEC、EC、EU
第3回	第2次大戦後のドイツの過去の克服と独仏関係の歴史
第4回	ベックの『ユーロ消滅?』(1)ユーロ危機と欧州分断
第5回	ベックの『ユーロ消滅?』(2)欧州の新たな権力構造
第6回	ベックの『ユーロ消滅?』(3)欧州のための社会契約
第7回	現代ドイツと欧州の時事問題に関する記事の講読(1)
第8回	現代ドイツと欧州の時事問題に関する記事の講読(2)
第9回	現代ドイツと欧州の時事問題に関する記事の講読(3)
第10回	現代ドイツと欧州の時事問題に関する記事の講読(4)
第11回	現代ドイツと欧州の時事問題に関する記事の講読(5)
第12回	受講生による時事問題に関するレポート発表(1)
第13回	受講生による時事問題に関するレポート発表(2)
第14回	授業のまとめ、小テスト
第15回	振り返り

### 授業方法

基本的に演習形式(ただし第2回と第3回だけは講義形式)

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

・授業前に予め教科書や講読予定文章の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと(1～2時間)。・授業時に受けた指摘事項を復習すること(1～2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

レポートはレポートとしての形式を踏まえているかということをチェックする(詳細については授業時に指摘する)。小テストは授業時に習得した基本的知識を確認するためのものである。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては各自発表時にこちらからコメントをする。小テストについては、テスト後にこちらから模範解答を呈示し、解説をする。

### **教科書**

ユーロ消滅？,ウルリッヒ・ベック,岩波書店,第1,2013,978-4-00-025418-2

### **教科書コメント**

上記の本以外は、授業時に逐次、プリントを配布する。

### **参考文献コメント**

授業時に逐次、紹介する。

### **履修上の注意**

第1回の授業(ガイダンス)には必ず、出席すること。履修者数制限あり。

講義コード	U350303101	科目ナンバリング	035B501
科目名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(1)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	SOMMER, Ekaterina Viktoro		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西1-108		

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Zeit und Zeitgefühl", "Männer - Frauen - Paare" und "Schule". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl"
第2回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeit und Lebenszeit)
第3回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Die Geschichte des Brandenburgertors)
第4回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Reiseführer)
第5回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Zeitungstext)
第6回	Fortführung Themenkreis "Zeit und Zeitgefühl" (Gedicht von Goethe)
第7回	Einführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare"
第8回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Rollenklischees)
第9回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Partnerschaft)
第10回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Das 4 -Ohren-Modell der Kommunikation)
第11回	Fortführung Themenkreis "Männer - Frauen - Paare" (Zeitschriftenartikel)
第12回	Einführung Themenkreis "Schule und lernen"
第13回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Schule und Schulsystem in Deutschland)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

### 授業方法

Kommunikativ orientiert.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

## 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)3とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303102	科目ナンバリング	035B501
科目名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	SOMMER, Ekaterina Viktoro		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西1-108		

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Schule", "Verhaltensregeln" und "Migration". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Berufe in der Schule)
第2回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Bildungswege)
第3回	Fortführung Themenkreis "Schule und lernen" (Lernnote)
第4回	Einführung Themenkreis "Verhaltensregeln"
第5回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 1)
第6回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Pleiten, Pech und Pannen 2)
第7回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Knigge interkulturell)
第8回	Fortführung Themenkreis "Verhaltensregeln" (Konflikte)
第9回	Einführung Themenkreis "Migration"
第10回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Ein- und Auswanderungsland Deutschland)
第11回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Migrationsgründe)
第12回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Auswanderungsgeschichten)
第13回	Fortführung Themenkreis "Migration" (Film "Solino")
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

### 授業方法

Kommunikativ orientiert.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

studio [21] B1, Hermann Funk / Christina Kuhn u. a., Cornelsen, 2015, 978-3-06-520599-3

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

## 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)4とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303103	科目ナンバリング	035B501
科目名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(3)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 北1-407		

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Alltagsprobleme", "Arbeit im Wandel" und "Klima und Umwelt". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Alltag"
第2回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (auf der Bank / bei der Polizei)
第3回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Ursachen)
第4回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Stress im Beruf: Strategien)
第5回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Lachen ist gesund)
第6回	Fortführung Themenkreis "Alltag" (Zeitschriftenartikel / Sprichwörter)
第7回	Einführung Themenkreis "Arbeit im Wandel"
第8回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Geschichte einer Region kennenlernen)
第9回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Ruhrgebiet)
第10回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Arbeitsunfälle)
第11回	Fortführung Themenkreis "Arbeit im Wandel" (Zeitschriftenartikel)
第12回	Einführung Themenkreis "Klima und Umwelt"
第13回	Fortführung Themenkreis "Klima und Umwelt" (Klimawandel)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

### 授業方法

Kommunikativ orientiert.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

studio [21] B1,Hermann Funk / Christina Kuhn u. a.,Cornelsen,2015,978-3-06-520599-3

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

## 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)1とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。



講義コード	U350303104	科目ナンバリング	035B501
科目名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(4)		
副題	Deutsch kommunikativ		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 北1-407		

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Klima", "Generation" und "Europa". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Umweltprobleme)
第2回	Fortführung Themenkreis "Klima" (UN-Klimareport)
第3回	Fortführung Themenkreis "Klima" (Zeitungs- und Onlineartikel)
第4回	Einführung Themenkreis "Generationen"
第5回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Kindheit, Jugend, Alter)
第6回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Wohnformen im Alter)
第7回	Einführung Themenkreis "Generationen" (Kinderträume)
第8回	Fortführung Themenkreis "Generationen" (Romanauszug: "Die blauen und die grauen Tage")
第9回	Einführung Themenkreis "Europa"
第10回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Wir sind Europa!)
第11回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Die Europäische Union)
第12回	Einführung Themenkreis "Europa" (Euro-Krise)
第13回	Fortführung Themenkreis "Europa" (Europa-Quiz)
第14回	Klausur (Summing up)
第15回	Zusatzübung (Independent research)

### 授業方法

Kommunikativ orientiert.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

studio [21] B1, Hermann Funk / Christina Kuhn u. a., Cornelsen, 2015, 978-3-06-520599-3

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

## 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304101	科目ナンバリング	035B502
科目名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 北1-402		

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 2 : In der Firma (Lesen)
第3回	Lektion 2 : In der Firma (Grammatik)
第4回	Lektion 2 : In der Firma (Hören)
第5回	Lektion 2 : In der Firma (Schreiben)
第6回	Lektion 4 : Nach der Schule (Lesen)
第7回	Lektion 4 : Nach der Schule (Grammatik)
第8回	Lektion 4 : Nach der Schule (Hören)
第9回	Lektion 4 : Nach der Schule (Schreiben)
第10回	Lektion 6 : Städte erleben (Lesen)
第11回	Lektion 6 : Städte erleben (Grammatik)
第12回	Lektion 6 : Städte erleben (Hören)
第13回	Lektion 6 : Städte erleben (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

### 授業方法

„Sicher !“ (Niveau B2)をテキストとして使用し、総合的なドイツ語力のレベルアップをはかる練習をします。適宜グループ単位での練習を取り入れます。

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書

Sicher ! Niveau B2, Kursbuch Lektion 1-12, Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2014, 978-3-19-001207-7

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304102	科目ナンバリング	035B502
科目名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	IHLOW, Uwe		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 北1-402		

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 8 : Ernährung (Lesen)
第3回	Lektion 8 : Ernährung (Grammatik)
第4回	Lektion 8 : Ernährung (Hören)
第5回	Lektion 8 : Ernährung (Schreiben)
第6回	Lektion 10 : Service (Lesen)
第7回	Lektion 10 : Service (Grammatik)
第8回	Lektion 10 : Service (Hören)
第9回	Lektion 10 : Service (Schreiben)
第10回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Lesen)
第11回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Grammatik)
第12回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Hören)
第13回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

### 授業方法

„Sicher !“ (Niveau B2)をテキストとして使用し、総合的なドイツ語力のレベルアップをはかる練習をします。適宜グループ単位での練習を取り入れます。

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書

Sicher ! Niveau B2, Kursbuch Lektion 1-12, Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2014, 978-3-19-001207-7

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304103	科目ナンバリング	035B502
科目名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西2-404		

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 1 : Freunde (Lesen)
第3回	Lektion 1 : Freunde (Grammatik)
第4回	Lektion 1 : Freunde (Hören)
第5回	Lektion 1 : Freunde (Schreiben)
第6回	Lektion 3 : Medien (Lesen)
第7回	Lektion 3 : Medien (Grammatik)
第8回	Lektion 3 : Medien (Hören)
第9回	Lektion 3 : Medien (Schreiben)
第10回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Lesen)
第11回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Grammatik)
第12回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Hören)
第13回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

### 授業方法

„Sicher !“ (Niveau B2)をテキストとして使用し、総合的なドイツ語力のレベルアップをはかる練習をします。適宜グループ単位での練習を取り入れます。

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書

Sicher ! Niveau B2, Kursbuch Lektion 1-12, Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2014, 978-3-19-001207-7

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。



講義コード	U350304104	科目ナンバリング	035B502
科目名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)		
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西2-404		

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung
第2回	Lektion 7 : Beziehungen (Lesen)
第3回	Lektion 7 : Beziehungen (Grammatik)
第4回	Lektion 7 : Beziehungen (Hören)
第5回	Lektion 7 : Beziehungen (Schreiben)
第6回	Lektion 9 : An der Uni (Lesen)
第7回	Lektion 9 : An der Uni (Grammatik)
第8回	Lektion 9 : An der Uni (Hören)
第9回	Lektion 9 : An der Uni (Schreiben)
第10回	Lektion 11 : Gesundheit (Lesen)
第11回	Lektion 11 : Gesundheit (Grammatik)
第12回	Lektion 11 : Gesundheit (Hören)
第13回	Lektion 11 : Gesundheit (Schreiben)
第14回	Referate zu selbst gewählten Themen
第15回	Evaluation

### 授業方法

„Sicher !“ (Niveau B2)をテキストとして使用し、総合的なドイツ語力のレベルアップをはかる練習をします。適宜グループ単位での練習を取り入れます。

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書

Sicher ! Niveau B2, Kursbuch Lektion 1-12, Michaela Perlmann-Balme / Susanne Schwalb, Hueber Verlag, 2014, 978-3-19-001207-7

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350305101	科目ナンバリング	035A301
科目名	コミュニケーション演習(上級)(1)		
副題	ドイツ史のテキストを読む		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	遠藤 浩介		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西1-212		

### 授業概要

この授業では12歳以上に向けて書かれたドイツ史の本を読み、語彙力と文法力、読解力を高め、ドイツ史の背景知識を学びます。ただし各自で訳文を作成していただくのではなく、いわば「テキストを理解するためのコミュニケーション」がこの授業のテーマとなります。担当グループの方にはテキストを訳すための語彙集を作成し、文法的に難しい箇所やテキストを理解するための時代背景や関連情報を調べてきてレクチャーしていただきます。それを踏まえて他の参加者にはグループワークでテキストを訳していただきます。受講者の数にもよりますが、数回に一回は担当が回ってくると考えてください。前期では第二次戦世界大戦の終結からヴェイリー・ブランドの東方政策までを扱います。

### 到達目標

- ・ドイツ史の基礎知識を得る。
- ・平易なドイツ語の文章を理解する力を磨く。
- ・テキストを理解するためのコミュニケーション力を磨く。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	Was soll aus Deutschland werden? (1) 前半部
第3回	Was soll aus Deutschland werden? (2) 中間部
第4回	Was soll aus Deutschland werden? (3) 前半部
第5回	Zwei Deutschland (1) 前半部
第6回	Zwei Deutschland (2) 後半部
第7回	Made in West Germany (1) 前半部
第8回	Made in West Germany (2) 後半部
第9回	Die DDR mauert sich ein (1) 前半部
第10回	Die DDR mauert sich ein (2) 後半部
第11回	Mehr Demokratie wagen (1) 前半部
第12回	Mehr Demokratie wagen (2) 後半部
第13回	Wandel durch Annäherung
第14回	まとめ
第15回	振り返り

### 授業計画コメント

学生の理解度や関心に応じて、進度や扱う範囲を変えることがある。

### 授業方法

担当グループは指定箇所の語彙集を作成し、文法的な解説と背景知識のレクチャーをしていただきます。その後、グループワークでテキストを訳します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

担当グループの方はあらかじめ語彙集を作成し、他の受講者に文法的な解説や背景知識のレクチャーをするための準備をします。(1～2時間)他の受講者は指定箇所を読み、担当グループへの質問を考えておきます。(1時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点: 担当者は他の受講生の助けとなる語彙リストを作成し、また難読箇所や背景知識を調べて発表しているか。他の受講生はグ

グループで積極的に議論をして訳の作成に貢献しているか。

学期末試験:ドイツ語の文章を理解し、正確な日本語に直せているかどうか。そして必要な背景知識の知識があるかどうか。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

担当グループには授業期間内にフィードバックをします。

### **教科書**

Deutsche Geschichte, Manfred Mai, Beltz & Gelberg, 11, 2017, 978-3-407-75524-7

### **参考文献コメント**

授業中に指示する。

### **履修上の注意**

- ・初回授業には必ず出席すること。
- ・履修希望者が30人を超えた場合には履修制限をすることがある。

講義コード	U350305102	科目ナンバリング	035A301
科目名	コミュニケーション演習(上級)(2)		
副題	ドイツ史のテキストを読む		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	遠藤 浩介		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 西1-212		

### 授業概要

この授業では1学期に引き続き12歳以上に向けて書かれたドイツ史の本を読み、語彙力と文法力、読解力を高め、ドイツ史の背景知識を学びます。ただし各自で訳文を作成していただくのではなく、いわば「テキストを理解するためのコミュニケーション」がこの授業のテーマとなります。担当グループの方にはテキストを訳すための語彙集を作成し、文法的に難しい箇所やテキストを理解するための時代背景や関連情報を調べてきてレクチャーしていただきます。それを踏まえて他の参加者にはグループワークでテキストを訳していただきます。受講者の数にもよりますが、数回に一回は担当が回ってくると考えてください。後期では70年代から21世紀の現代までを扱います。

### 到達目標

- ・ドイツ史の基礎知識を得る。
- ・平易なドイツ語の文章を理解する力を磨く。
- ・テキストを理解するためのコミュニケーション力を磨く。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	Wer zu spät kommt, den betrifft das Leben (1) 前半部
第3回	Wer zu spät kommt, den betrifft das Leben (2) 後半部
第4回	Wir sind ein Volk! (1) 前半部
第5回	Wir sind ein Volk! (1) 後半部
第6回	Auf dem Weg ins "Euroland" (1) 前半部
第7回	Auf dem Weg ins "Euroland" (2) 中間部
第8回	Auf dem Weg ins "Euroland" (3) 後半部
第9回	Nie wieder Krieg? (1) 前半部
第10回	Nie wieder Krieg? (2) 中間部
第11回	Nie wieder Krieg? (3) 後半部
第12回	Reformen, Reformen, Reformen! (1) 前半部
第13回	Reformen, Reformen, Reformen! (2) 後半部
第14回	まとめ
第15回	振り返り

### 授業計画コメント

学生の理解度や関心に応じて、進度や扱う範囲を変えることがある。

### 授業方法

担当グループは指定箇所の語彙集を作成し、文法的な解説と背景知識のレクチャーをしていただきます。その後、グループワークでテキストを訳します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

担当グループの方はあらかじめ語彙集を作成し、他の受講者に文法的な解説や背景知識のレクチャーをするための準備をします。(1～2時間)他の受講者は指定箇所を読み、担当グループへの質問を考えておきます。(1時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点: 担当者は他の受講生の助けとなる語彙リストを作成し、また難読箇所や背景知識を調べて発表しているか。他の受講生はグ

グループで積極的に議論をして訳の作成に貢献しているか。

学年末試験:ドイツ語の文章を理解し、正確な日本語に直せているかどうか。そして必要な背景知識があるかどうか。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

担当グループには授業期間内にフィードバックをします。

### **教科書**

Deutsche Geschichte, Manfred Mai, Beltz & Gelberg, 11, 2017, 978-3-407-75524-7

### **参考文献コメント**

授業中に指示する。

### **履修上の注意**

- ・初回授業には必ず出席すること。
- ・履修希望者が30人を超えた場合には履修制限をすることがある。

講義コード	U350305103	科目ナンバリング	035A301
科目名	コミュニケーション演習(上級)(3)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	STRASSHEIM, Jan		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 西1-302		

### 授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache aus längeren Aufenthalten in einem deutschsprachigen Gebiet oder aus mehrjährigem Unterricht. Diese Kenntnisse sollen gefestigt und erweitert werden. Der Unterricht findet auf Deutsch statt; bei Bedarf können aber kurze Erklärungen auf Japanisch gegeben werden.

### 到達目標

Stärkung und Aktivierung mündlicher Kommunikationsfähigkeiten (Hörverstehen; Sprechen, einschließlich einer klaren und natürlichen Aussprache; Diskussion) mit Bezug auf wirklichkeitsnahe Themen und Wortfelder und zur geschriebenen Sprache

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses. Feststellung des Niveaus der Teilnehmerinnen und Teilnehmer
第2回	Gesprächsübung
第3回	Text 1
第4回	Fortführung Text 1
第5回	Rollenspiel
第6回	Redebeiträge
第7回	Diskussion
第8回	Text 2
第9回	Gesprächsübung
第10回	Redebeiträge
第11回	Diskussion
第12回	Text 3
第13回	Fortführung Text 3
第14回	Diskussion; Vorbereitung auf die mündliche Prüfung
第15回	mündliche Prüfung

### 授業方法

Kurze Texte werden gemeinsam gelesen und sprachlich erläutert. Nach der Lektüre gehen wir in Zusammenfassungen, Diskussionen und Kommentaren auf die Texte und die darin behandelten Themen ein. Gesprächsübungen und Rollenspiele sollen das Hörverstehen und Sprechen weiter stärken. Hinzu kommt die Vorbereitung kleiner Redebeiträge zu einem Thema in Einzel- oder Gruppenarbeit.

Die Kursplanung lässt Spielraum für Anregungen der Teilnehmerinnen und Teilnehmer und soll so weit wie möglich auf individuelle Bedürfnisse eingehen.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Zusätzlich zur Vor- und Nachbereitung der Sitzungen können weitere, kleine Hausaufgaben (incl. schriftliche Arbeiten) hinzukommen.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Mündliches Feedback

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。

履修者数制限あり。



講義コード	U350305104	科目ナンバリング	035A301
科目名	コミュニケーション演習(上級)(4)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	STRASSHEIM, Jan		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 西1-302		

### 授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache aus längeren Aufenthalten in einem deutschsprachigen Gebiet oder aus mehrjährigem Unterricht. Diese Kenntnisse sollen gefestigt und erweitert werden. Der Unterricht findet auf Deutsch statt; bei Bedarf können aber kurze Erklärungen auf Japanisch gegeben werden.

### 到達目標

Stärkung und Aktivierung mündlicher Kommunikationsfähigkeiten (Hörverstehen; Sprechen, einschließlich einer klaren und natürlichen Aussprache; Diskussion) mit Bezug auf wirklichkeitsnahe Themen und Wortfelder und zur geschriebenen Sprache

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses. Feststellung des Niveaus der Teilnehmerinnen und Teilnehmer
第2回	Gesprächsübung
第3回	Text 1
第4回	Fortführung Text 1
第5回	Rollenspiel
第6回	Redebeiträge
第7回	Diskussion
第8回	Text 2
第9回	Gesprächsübung
第10回	Redebeiträge
第11回	Diskussion
第12回	Text 3
第13回	Fortführung Text 3
第14回	Diskussion; Vorbereitung auf die mündliche Prüfung
第15回	mündliche Prüfung

### 授業方法

Kurze Texte werden gemeinsam gelesen und sprachlich erläutert. Nach der Lektüre gehen wir in Zusammenfassungen, Diskussionen und Kommentaren auf die Texte und die darin behandelten Themen ein. Gesprächsübungen und Rollenspiele sollen das Hörverstehen und Sprechen weiter stärken. Hinzu kommt die Vorbereitung kleiner Redebeiträge zu einem Thema in Einzel- oder Gruppenarbeit.

Die Kursplanung lässt Spielraum für Anregungen der Teilnehmerinnen und Teilnehmer und soll so weit wie möglich auf individuelle Bedürfnisse eingehen.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Zusätzlich zur Vor- und Nachbereitung der Sitzungen können weitere, kleine Hausaufgaben (incl. schriftliche Arbeiten) hinzukommen.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Mündliches Feedback

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。

履修者数制限あり。

講義コード	U350305105	科目ナンバリング	035A301
科目名	コミュニケーション演習(上級)(5)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	白井 宏美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 5時限 中央-507		

### 授業概要

初級文法を復習しながら、適切なドイツ語を書く訓練をします。ドイツ語の文を作るうえで重要な点を丁寧に解説していきます。語形変化などの形のみを練習するのではなく、ドイツ語の語感を身につけていきます。

### 到達目標

表現意図に応じた適切なドイツ語の文を作れるようになるのが目標です。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入: オリエンテーション
第2回	第1課 まずは主語と定動詞を決める
第3回	第1課 自己紹介の練習
第4回	第2課 ドイツ語らしい語順
第5回	第2課 趣味を言う練習
第6回	第3課 否定文の作り方・1課2課の小テスト
第7回	第3課 好き嫌いを言う練習
第8回	第4課 冠詞を正しく使おう
第9回	第4課 身体の調子や病気について言う練習
第10回	第5課 情報の流れを考える・3課4課の小テスト
第11回	第5課 子どもの時のことを語る練習
第12回	第6課 空間の位置関係の表し方
第13回	第6課 行き方を説明する練習
第14回	5課6課の小テスト・まとめと復習
第15回	理解度確認

### 授業計画コメント

教科書として『ドイツ語を書いてみよう!』(清野智昭著、白水社)を用い、その前半の6課を扱います。後期開講の「コミュニケーション演習(上級)(6)」で教科書の後半を扱います。

### 授業方法

参加者は、次回の授業で扱う範囲の例文を予め訳し、各自、期限までに提出してもらいます。授業でそれらの文を取り上げ、説明を加えます。また、ペアワークやグループワークも取り入れ、ドイツ語で表現する練習をします。

### 準備学習(予習・復習)

予習として、次回の授業で扱う部分の例文を訳します。課題の難易度と本人のドイツ語力によりますが、1時間～2時間の時間が必要になります。復習は、授業で訳し、確認した文を暗記して使えるようにします。1時間程度の時間が必要です。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	60 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書2課分ずつ小テストを実施していき、計3回の合計点を成績評価の60%とします。この小テストでは適切にドイツ語文を作れるかを評価します。期末にレポートを課し、特定のテーマについてドイツ語で文章を書いてもらい、これを20%の成績にします。このレポートでは、適切ドイツ語が使えているか、内容に即した表現ができていないかを評価の対象とします。平常点(20%)では、出席はもちろんのこと、毎回の課題をきちんと提出しているか、授業中、積極的に参加しているかを評価の対象とします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については毎回の授業で取り扱います。レポートについてはコメントを付し、G-Port等を通じ提出者にフィードバックします。

### 教科書

ドイツ語を書いてみよう! [改訂版], 清野智昭, 白水社, 2016, 978-4-560-06417-7

### 履修上の注意

後期開講の「コミュニケーション演習(上級)(6)」と合わせて履修することが望ましい。人数制限あり。第1回目の授業に必ず参加してください。

### その他

課題をきちんとこなし、積極的な態度で授業に参加してください。学生との連絡はG-Portを基本とします。

講義コード	U350305106	科目ナンバリング	035A301
科目名	コミュニケーション演習(上級)(6)		
英文科目名	German Communication (Advanced Class)		
担当者名	白井 宏美		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 5時限 中央-507		

### 授業概要

この授業では、前期開講のコミュニケーション演習(上級)(5)に引き続き、初級文法を復習しつつ、適切なドイツ語を書く訓練をします。ドイツ語の文を作るためには何が分かっているかをやさしく解説していきます。語形変化などの形のみを練習するのではなく、ドイツ語の語感を身につけていきます。

### 到達目標

文法的に正しく、適切なドイツ語文章を書けるようになるのが目標です。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入: オリエンテーション
第2回	第7課 前置詞を使いこなそう
第3回	第7課 時間を表現する練習(1)
第4回	第8課 視点の取り方
第5回	第8課 時間を表現する練習(2)
第6回	第9課 人と物の表し方・第7課8課の小テスト
第7回	第9課 意見を述べる練習
第8回	第10課 話法でニュアンスを付け加える
第9回	第10課 予定を言う練習
第10回	第11課 名詞化する・9課10課の小テスト
第11回	第11課 論理的に書く練習
第12回	第12課 ドイツ語らしい論理展開を心がける
第13回	第12課 論理的に話す練習
第14回	11課12課の小テスト・まとめと復習
第15回	理解度確認

### 授業計画コメント

教科書として『ドイツ語を書いてみよう!』(清野智昭著、白水社)を用い、その後半の6課を扱います。

### 授業方法

参加者は、次回の授業で扱う範囲の例文を予め訳し、各自、期限までに提出してもらいます。授業でそれらの文を取り上げ、説明を加えます。また、ペアワークやグループワークも取り入れ、ドイツ語で表現する練習をします。

### 準備学習(予習・復習)

予習として、次回の授業で扱う部分の例文を訳します。課題の難易度と本人のドイツ語力によりますが、1時間～2時間の時間が必要になります。復習は、授業で訳し、確認した文を暗記して使えるようにします。1時間程度の時間が必要です。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	60 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

教科書2課分ずつ小テストを実施していき、計3回の合計点を成績評価の60%とします。この小テストでは正確にドイツ語文を作れるかを評価します。期末にレポートを課し、特定のテーマについてドイツ語で文章を書いてもらい、これを20%の成績にします。このレポートでは、適切なドイツ語が使えているか、内容に即した表現ができているかを評価の対象とします。平常点(20%)では、出席はもちろんのこと、毎回の課題をきちんと提出しているか、授業中、積極的に参加しているかを評価の対象とします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については毎回の授業で取り扱う。レポートについてはコメントを付し、G-Port等を通じ提出者にフィードバックする。

### 教科書

ドイツ語を書いてみよう! [改訂版], 清野智昭, 白水社, 2016, 978-4-560-06417-7

### 履修上の注意

前期開講の「コミュニケーション演習(上級)(5)」と合わせて履修することが望ましい。人数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。

### その他

課題をきちんとこなし、積極的な態度で授業に参加してください。学生との連絡はG-Portを基本とします。

講義コード	U350306101	科目ナンバリング	035B302
科目名	アカデミック・ライティング演習(1)		
副題	Akademisches Schreiben I		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 北1-406		

### 授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür ebenso wichtige kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussionstechniken erarbeitet, die für eine Seminarpräsentation notwendig sind. Die Studierenden haben die Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich vorzustellen und mit dem Seminarleiter und den anderen Studierenden darüber zu diskutieren.

### 到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegende Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Es sollen zudem Reflexionen über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung in die Thematik
第2回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben I
第3回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben II
第4回	Cluster-Bildung
第5回	Fabel-Text und Interpretationscluster
第6回	Interpretation und Bibliographie
第7回	Zusammenfassung I
第8回	Zusammenfassung II
第9回	Argumentation I
第10回	Argumentation II
第11回	Rhetorik I
第12回	Rhetorik II
第13回	Analyse rhetorischer Mittel
第14回	Test
第15回	Testrückgabe und Abschlussdiskussion

### 授業方法

Impulsanregungen durch den Seminarleiter, Gruppendiskussionen, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer und Teilnehmerinnen (Referate), Mediennutzung

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufgaben sind im Umfang von ca. 60. Minuten wöchentlich zur Semiarvorbereitung notwendig.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll eine Kurzpräsentation halten, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben. Die Leistungsbewertung setzt sich zusammen aus dem Referat (30%), der Teilnahme an der Diskussion (30%) und dem Abschlusstest (40%).

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Es wird vom Seminarleiter ausführlich mit jedem Teilnehmer und jeder Teilnehmerin über das Referat, die Unterrichtsbeteiligung und das Testergebnis gesprochen. Dies kann jeweils nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.



講義コード	U350306102	科目ナンバリング	035B302
科目名	アカデミック・ライティング演習(2)		
副題	Akademisches Schreiben II		
英文科目名	Seminar of Academic Writing		
担当者名	PEKAR, Thomas		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 1時限 北1-406		

### 授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür ebenso wichtige kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussionstechniken erarbeitet, die für eine Seminarpräsentation notwendig sind. Die Studierenden haben die Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich vorzustellen und mit dem Seminarleiter und den anderen Studierenden darüber zu diskutieren.

### 到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegende Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Es sollen zudem Reflexionen über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der Ergebnisse des ersten Semesters
第2回	Grundlagen der Seminarpräsentation I
第3回	Grundlagen der Seminarpräsentation II
第4回	Grundlagen der Seminarpräsentation III
第5回	Wissenschaftliches Arbeiten I
第6回	Wissenschaftliches Arbeiten II
第7回	Vorstellung der Abschlussarbeiten der Studierenden I
第8回	Vorstellung der Abschlussarbeiten der Studierenden II
第9回	Vorstellung der Abschlussarbeiten der Studierenden III
第10回	Vorstellung der Abschlussarbeiten der Studierenden IV
第11回	Vorstellung der Abschlussarbeiten der Studierenden V
第12回	Vorstellung der Abschlussarbeiten der Studierenden VI
第13回	Vorstellung der Abschlussarbeiten der Studierenden VII
第14回	Abschlussdiskussion
第15回	Nachbereitung

### 授業方法

Impulsanregungen durch den Seminarleiter, Gruppendiskussionen, Impulsanregungen durch die Teilnehmer und Teilnehmerinnen (Referate), Mediennutzung

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufgaben sind im Umfang von ca. 60. Minuten wöchentlich zur Seminarvorbereitung notwendig.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Jeder Teilnehmer und jede Teilnehmerin soll seine bzw. ihre Abschlussarbeit vorstellen, regelmäßig am Seminar teilnehmen und sich an der Diskussion beteiligen. Die Leistungsbewertung setzt sich aus dem Referat (50%) und der Teilnahme an der Diskussion (50%) zusammen.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Es wird vom Seminarleiter ausführlich mit jedem Teilnehmer und jeder Teilnehmerin über das Referat, die Unterrichtsbeteiligung und die Abschlussarbeit gesprochen. Dies kann jeweils nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350307101	科目ナンバリング	035B503
科目名	ドイツ語圏インターンシップ・プログラム		
英文科目名	Intenrship Program in German speaking Countries		
担当者名	大貫 敦子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

### 授業概要

ドイツ語圏の都市で、インターンシップを行う

### 到達目標

- ・ドイツ語圏の社会において、実際にドイツ語を使って意思疎通ができるようになる。
- ・仕事においてドイツ語を使えるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現地でのインターンシップ実習
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	中間報告
第16回	〃
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	総括

### 授業方法

インターンシップに参加する。

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

実際に行う仕事の内容についてよく考えて、あらかじめドイツ語表現を調べておく(1時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実際にインターンシップを行うにあたり生じた疑問に関して、その都度フィードバックを行う。

#### 履修上の注意

受講希望者は、学科の指定するガイダンスに必ず出席し、受講登録をする前に必ず相談をすること。インターンシップを行うためには、最低でも Zertifikat Deutsch (ヨーロッパ言語共通参照枠 B1) の試験に合格しているか、あるいはそれ以上のドイツ語力が必要とされる。したがって、受講登録してもドイツ語能力が不足する場合にはインターンシップが許可されない場合がある。